

2 0 0 2

# 授業概要

【シラバス】

## 福祉援助学科

白梅学園短期大学

SHIRAYAMA GAKUEN COLLEGE



## 目次 (福祉援助学科)

<b>教養教育科目(1年)</b>	1
海外語学研修	3
<b>専門教育科目(1年)</b>	5
社会福祉概論Ⅰ	7
社会福祉概論Ⅱ	8
老人福祉論Ⅰ	9
老人福祉論Ⅱ	10
リハビリテーション論	11
レクリエーション活動援助	12
老人の心理	13
障害者の心理	14
家政学概論Ⅰ	15
家政学概論Ⅱ	16
医学一般Ⅰ	17
医学一般Ⅱ	18
精神保健	19
介護概論Ⅰ	20
介護概論Ⅱ	21
介護技術Ⅰ	22
介護技術Ⅱ	23
介護技術Ⅲ	24
形態別介護技術Ⅰ(老人)	25
形態別介護技術Ⅱ(内部障害・肢体不自由)	26
形態別介護技術Ⅴ(聴覚障害)	27
介護実習Ⅰ	28
介護実習Ⅱ	29
実習指導Ⅰ	30
福祉研究入門	31
家族福祉論	32
カウンセリング	33
発達心理学	34
遊びの造形	35
シニアの音楽とダンス	36・37
<b>教養教育科目(2年)</b>	39
文学芸術・フィクションと人間	41
近現代の日本文学	42
世界の児童文学	43
源氏物語の世界	44
人物研究Ⅰ(和泉式部)	45
話し言葉の伝承	46
人物研究Ⅱ(柳田国男)	47
現代英米の文学	48

日本とアジアの近現代史	49
国境を越える民俗学	50
庶民の生活文化	51
比較文化論・近代文明と日本人	52
人物研究Ⅲ(有島武郎)	53
絵本・絵巻と物語表現	54
造形美術とイマジネーション	55
社会福祉の考え方	56
現代とヒューマニズムⅠ(近代国家と戦争)	57
現代とヒューマニズムⅡ(消費社会と欲望)	58
現代社会と人権	59
現代社会と教育	60
現代世界とマイノリティー	61
現代の文化と風俗	62
総合科目・人間	63~65
ヒューマニズム論	66
地域生活と家族	67
憲法と私たち(日本国憲法)	68
心理学入門Ⅰ(心のしくみ)	69
心理学入門Ⅱ(性格と人間関係)	70
言語とコミュニケーション	71
男と女・ジェンダーを考える	72
女性労働の問題	73
総合科目・生命	74
現代とヒューマニズムⅢ(科学技術と生命)	75
体の不思議	76
生と死を考える	77
人間の生と性	78
生物の世界と人間	79
人間と環境	80
生活と健康	81
情報処理入門	82
総合英語Ⅰ-1、2	83~86
海外語学研修	87
スポーツ	88~90

## 専門教育科目(2年) 91

障害児・者福祉論	93
社会福祉援助技術	94
社会福祉援助技術演習	95
家政学実習Ⅰ(栄養・調理)	96
家政学実習Ⅱ(被服・住居)	97・98
医学一般Ⅲ	99
形態別介護技術Ⅱ(内部障害・肢体不自由・知的障害・精神障害)	100
形態別介護技術Ⅲ(視覚障害)	101
介護実習Ⅲ	102
実習指導Ⅱ	103
実習指導Ⅲ	104
卒業研究ゼミナール	105~109

地域福祉論	.....	110
ホスピスケア概論	.....	111
視聴覚メディア活用法	.....	112



教養教育科目（1年）





【授業科目】 海外語学研修	【担当者】 瀧口 優
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 1. 英語を現地で体験して英語力を身につける。 2. 英語を通じてコミュニケーションの意味を理解する。	
【テキスト】 必要に応じて指示する。	
----- 【参考書】 必要に応じて紹介する	
授 業 計 画	
<p>イギリスはリーズ市にあるメトロポリタン大学の語学センターで3週間のプログラムに参加する。その間の生活はホームステイ。ウィークデイは1日2コマの英語の授業があり、現地の教員が懇切丁寧に指導する。</p> <p>また世界中から集まる学生達とスポーツやパーティをする機会もあり、英語圏だけでなく、視野を世界に広げることできるだろう。週末には近くにある有名な史跡などを訪ね、イギリスの歴史や文化に親しめる。ロンドン観光を含めて約4週間のイギリス滞在は、英語の見方を変えてくれるだろう。</p> <p>出発に向けて、前期に5回事前指導を行い、パスポートの取得から渡航手続き、現地での生活の仕方、簡単なサバイバル英会話まで指導します。</p> <p>【予定】 (多少変わるところもあります)</p> <p>8月3日 (土) 成田出発、アムステルダム経由でリーズへ (ホームステイ先へ)</p> <p>8月5日 (月) ~23日 (金)</p> <p style="padding-left: 2em;">リーズ・メトロポリタン大学での語学研修</p> <p style="padding-left: 2em;">*午後・休日に課外活動</p> <p style="padding-left: 4em;">ヨーク・ウインダミア (湖水地方: ピーターラビットの故郷)</p> <p style="padding-left: 4em;">ハワース (嵐が丘: ブロンテのルーツ)</p> <p>8月23日 (金) ロンドンへ</p> <p style="padding-left: 2em;">~26日 (月) ロンドン滞在</p> <p>8月26日 (月) アムステルダムへ</p> <p style="padding-left: 2em;">*アンネの家訪問等</p> <p>8月27日 (火) アムステルダム発</p> <p>8月28日 (水) 成田着</p>	
【評価方法】 ふだんの学習状況などの平常点 (出欠、予習、質問、意見発表など) とレポートで行う。	



專門教育科目（1年）



【授業科目】 社会福祉概論Ⅰ	【担当者】 鍾 家新																														
【開講期】 1年 前期																															
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は、つぎの諸項目に関する理解を深めることを目標とする。これらは、①現代社会における社会福祉の意義・理念、社会福祉の基本的な考え方、②社会福祉の形成・発展過程及び社会福祉の推進要因、③社会福祉の法体系・制度及び財政全体の要旨、運営組織、福祉の措置、運営全体の概要、④社会福祉の基礎とする社会保障制度（所得、医療、住宅、雇用及び公的扶助など）の概要、⑤介護保険の内容と課題である。本講義の受講によって、学生たちは、福祉援助者として社会福祉に関する必要な知識を身につける。</p>																															
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座1 社会福祉概論』中央法規、2002年。</p>																															
<p>【参考書】</p>																															
授 業 計 画																															
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">1. 私たちの暮らしと社会福祉</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">(第1回)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉とは何か。</td> <td style="text-align: right;">(第2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉の概念のとらえ方</td> <td style="text-align: right;">(第3回)</td> </tr> <tr> <td>4. イギリスの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第4回)</td> </tr> <tr> <td>5. アメリカの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第5回)</td> </tr> <tr> <td>6. スウェーデンの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第6回)</td> </tr> <tr> <td>7. 社会事業成立以前</td> <td style="text-align: right;">(第7回)</td> </tr> <tr> <td>8. 社会事業成立期</td> <td style="text-align: right;">(第8回)</td> </tr> <tr> <td>9. 戦後社会福祉の展開</td> <td style="text-align: right;">(第9回)</td> </tr> <tr> <td>10. 社会福祉の法制</td> <td style="text-align: right;">(第10回)</td> </tr> <tr> <td>11. 所得保障制度</td> <td style="text-align: right;">(第11回)</td> </tr> <tr> <td>12. 医療保障制度</td> <td style="text-align: right;">(第12回)</td> </tr> <tr> <td>13. 介護保険の内容と課題</td> <td style="text-align: right;">(第13回)</td> </tr> <tr> <td>14. 社会福祉行政</td> <td style="text-align: right;">(第14回)</td> </tr> <tr> <td>15. 社会福祉の財政</td> <td style="text-align: right;">(第15回)</td> </tr> </table>		1. 私たちの暮らしと社会福祉	(第1回)	2. 社会福祉とは何か。	(第2回)	3. 社会福祉の概念のとらえ方	(第3回)	4. イギリスの社会福祉	(第4回)	5. アメリカの社会福祉	(第5回)	6. スウェーデンの社会福祉	(第6回)	7. 社会事業成立以前	(第7回)	8. 社会事業成立期	(第8回)	9. 戦後社会福祉の展開	(第9回)	10. 社会福祉の法制	(第10回)	11. 所得保障制度	(第11回)	12. 医療保障制度	(第12回)	13. 介護保険の内容と課題	(第13回)	14. 社会福祉行政	(第14回)	15. 社会福祉の財政	(第15回)
1. 私たちの暮らしと社会福祉	(第1回)																														
2. 社会福祉とは何か。	(第2回)																														
3. 社会福祉の概念のとらえ方	(第3回)																														
4. イギリスの社会福祉	(第4回)																														
5. アメリカの社会福祉	(第5回)																														
6. スウェーデンの社会福祉	(第6回)																														
7. 社会事業成立以前	(第7回)																														
8. 社会事業成立期	(第8回)																														
9. 戦後社会福祉の展開	(第9回)																														
10. 社会福祉の法制	(第10回)																														
11. 所得保障制度	(第11回)																														
12. 医療保障制度	(第12回)																														
13. 介護保険の内容と課題	(第13回)																														
14. 社会福祉行政	(第14回)																														
15. 社会福祉の財政	(第15回)																														
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験と出席状況。</p>																															

【授業科目】 社会福祉概論Ⅱ

【担当者】 鍾 家新

【開講期】 1年 後期

【授業目標】

本講義は、つぎの諸項目に関する理解を深めることを目標とする。これらは、①社会福祉の遂行と福祉専門職の必要性、②公務専門職員および民間専門職員による福祉活動や福祉社会確立の必要性、③社会福祉援助技術の概要および動向、④社会福祉の専門職の概要と福祉資格法の必要性および倫理的諸問題、⑤福祉ニーズとその変容、⑥在宅・地域福祉の現状と課題、⑦社会福祉をめぐる国内外の近年の動向、である。本講義の受講によって、学生たちは、福祉援助者として社会福祉に関する必要な知識と能力を得ることができる。

【テキスト】

福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座1 社会福祉概論』中央法規、2002年。

【参考書】

授 業 計 画

- |                      |        |
|----------------------|--------|
| 1. 社会福祉の主体           | (第1回)  |
| 2. 社会福祉ニーズの分類        | (第2回)  |
| 3. 社会福祉ニーズの把握        | (第3回)  |
| 4. 社会福祉援助の意味         | (第4回)  |
| 5. 社会福祉の援助形態         | (第5回)  |
| 6. 社会福祉の援助方法         | (第6回)  |
| 7. 社会福祉の専門性と業務内容     | (第7回)  |
| 8. 社会福祉専門職の倫理        | (第8回)  |
| 9. 介護ニーズの社会的増大       | (第9回)  |
| 10. 福祉士法の社会的意義       | (第10回) |
| 11. 福祉士法の全体的内容       | (第11回) |
| 12. 地域福祉の現状と課題       | (第12回) |
| 13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向 | (第13回) |
| 14. 21世紀の社会福祉の傾向     | (第14回) |
| 15. 総括               | (第15回) |

【評価方法】

試験と出席状況。

<b>【授業科目】</b> 老人福祉論 I	<b>【担当者】</b> 佐野 英司
<b>【開講期】</b> 福祉援助学科 1年 前期	
<b>【授業目標】</b> 老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを目標に授業を進めていきます。 1. 老人福祉の社会的背景について学ぶ 2. 老人福祉の理念・目的を学ぶ 3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学ぶ 4. 現行および今後の老人福祉、老人保健の政策、制度について学ぶ また、老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続きなど、具体的実践活動について学ぶ 5. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について学び考える	
<b>【参考図書】</b> 「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣) 「老いと暮らす」 (岩波書店・安田陸男著) その他、授業中に適宜紹介します。また、参考論文はコピーして授業で使います。	
<b>【授業の進め方】</b> 授業は、上記授業目標を具体化し、プリントを中心に進めます。また、ビデオも活用します	
<b>【評価の方法】</b> 授業は、定時に始めます。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。 評価は、平常点（遅刻、欠席、数回実施するレポートの提出状況等）30%、前期試験（レポート）70%で、その総合点で評価します。	

<b>【担当科目】</b> 老人福祉論 II	<b>【担当者】</b> 佐野 英司
<b>【開講期】</b> 福祉援助学科 1年 後期	
<b>【授業目標】</b> 前期の「老人福祉論I」授業を受け、介護福祉実習を控えて老人福祉の基本的視点を確立する。 1. 介護保険制度について学ぶ 3. 自立とは何か、自立につながる援助とは何かを学ぶ 4. 在宅福祉への取り組み方について学ぶとともに、地域社会との連携の意義と方法について学ぶ 5. 家族やボランティアとの関わる意義と方法について学ぶ 6. 施設運営の円滑化、他業種との連携の意義と方法について学ぶ 7. 福祉労働の在り方について学ぶ	
<b>【参考図書および教材】</b> 「すべての人にゆたかな老いを」・・・（文理閣 松井一晃、児島珠理共著） 「障害者の自立と発達保障」 （全障研出版部 加藤直樹著）	
<b>【授業の進め方】</b> 第1、2期介護福祉実習を意識し、多くの学生が卒業後に就く介護福祉労働の理論と実践を常に結びつけられるよう、ビデオやディスカッションもとり入れダイナミックに授業が進められるよう努める。	
<b>【評価の方法】</b> 授業は、定時に始めます。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。 評価は、平常点（遅刻、欠席、数回実施するレポートの提出状況等）30%、後期試験（レポート）70%で、その総合点で評価します。	



【授業科目】 リハビリテーション論

【担当者】 望月 彬也

【開講期】 1年 後期

【授業目標】

- 1 リハビリテーションの理念と基本原則を理解させる
- 2 障害の程度とその影響を理解させる
- 3 リハビリテーションの展開過程について理解させる
- 4 日常生活の自立支援及び社会生活能力の維持拡大への援助について理解させる

【テキスト】

三訂リハビリテーション論 中央法規

【参考書】

授 業 計 画

- 1 リハビリテーションの理念と基本原則
  - 1) リハビリテーション事業の発展と現代社会におけるリハビリテーションの需要
  - 2) リハビリテーションの概念及び基本原則
  - 3) リハビリテーションにおける総合的サービス体系
- 2 障害の程度とその影響
  - 1) 老化による機能障害
  - 2) 障害者の身体的障害、知的障害、精神障害、重複障害
  - 3) 障害児の発達障害
- 3 リハビリテーションの展開過程
  - 1) リハビリテーション過程（相談と事前評価、リハビリテーション計画の作成（目標の設定を含む）、実施、実施後の評価）
  - 2) 個人的特性の把握
  - 3) 日常生活動作（ADL）評価
  - 4) 職業評価
  - 5) 社会参加の実現
- 4 リハビリテーションと介護
  - 1) 日常生活の自立支援及び社会生活能力の維持・拡大への援助
  - 2) リハビリテーション分野の専門職との連携
- 5 事例研究  
障害形態別の事例

【評価方法】

筆記テスト

【授業科目】 レクリエーション活動援助	【担当者】 浮田千枝子・高橋紀子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p><b>【授業目標】</b>  介護の現場で必要とされるレクリエーション活動援助に関する基本的な知識や技術、援助者の役割と態度について学ぶ。また、介護現場でのレクリエーションの計画技術や援助実践能力の習得に力点をおき、個人ニーズの理解に基づいた利用者に応じたレクリエーション援助の展開法について実技および演習形式で学習する。</p>	
<p><b>【テキスト】</b>  『レクリエーション活動援助法』中央法規出版</p>	
<p><b>【参考書】</b>  随時提示する。また、授業中にプリント等を配布する。</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>&lt;前 期&gt;  目標：①レクリエーションについての基本的な理解を得る  ②さまざまなレクリエーションの素材を体験し、その提供方法を学ぶ。特にグループを活用したレクリエーション体験を中心に学ぶ。  内容：Ⅰ. レクリエーションの基本的理解  ・レクリエーションとは何か  ・社会福祉におけるレクリエーションの役割  ・福祉サービス利用者の生活の特徴とレクリエーション活動の意義  ・社会福祉とレクリエーションの歴史 など  Ⅱ. レクリエーション活動の体験とその提供方法  ・コミュニケーションを促進する実技  ・福祉サービス利用者を意識したレクリエーション活動の体験  ・グループを活用したレクリエーションの提供方法 など</p> <p>&lt;後 期&gt;  目標：①レクリエーション活動の援助計画の立て方を学ぶ。  ②利用者一人ひとりにふさわしい個別レクリエーション活動の提供方法を学ぶ。  ③事例研究を通して援助者の役割を学ぶ。  内容：Ⅰ. レクリエーション活動援助計画の立案～介護実習Ⅰを素材に～  ・援助計画立案の基礎（条件、手順、など）  ・援助計画立案の実際＜演習＞  ・実施と評価の方法  ・実習でのレクリエーション活動援助の振り返り  Ⅱ. 個別レクリエーション活動の提供方法～介護実習Ⅱに向けて～  ・利用者の理解とニーズをどう把握するか  ・余暇歴およびレジャーカウンセリングの方法  ・個別レクリエーション活動援助の要点とその方法  Ⅲ. 事例研究および援助者の役割  ・高齢者へのレクリエーション活動援助  ・障害者へのレクリエーション活動援助  ・レクリエーション活動援助者に求められるもの～まとめ～</p>	
<p><b>【評価方法】</b>  出席・授業態度・授業中に課すレポート・学年末試験により総合的に評価する</p>	

【授業科目】 老人の心理	【担当者】 安藤 孝敏
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、高齢者の心理的特徴に関する基礎的な知識を学ぶことにより、支援したり介護したりする高齢者をより深く理解できるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>長嶋紀一・佐藤清公（編） 介護福祉士選書7「老人心理学」 建帛社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老化とは 老化のとらえ方、老化説、老化のあらわれ方について理解し、老年期とはどのような時期であるのかについて考える。</li> <li>2. 精神機能と知的機能の変化 加齢とともに精神機能と知的機能がどのように変化するかについて理解する。</li> <li>3. 老年期のパーソナリティと適応 パーソナリティの発達理論やパーソナリティの変容について知ることで、老年期のパーソナリティをより正しく理解する。</li> <li>4. 老年期の異常心理 意識混濁、妄想、幻覚など的高齢者にみられる異常心理を理解する。</li> <li>5. 老年期痴呆 痴呆の原因と種類、症状のあらわれ方や経過、心理的特徴、具体的対応の仕方などを理解する。</li> <li>6. 老年期の人間関係 老年期における人間関係を高齢者自身の変化と環境の変化からとらえ、どのようにすれば老年期の生活の質を高められるのかについて理解する。</li> <li>7. 高齢者と死 死の定義、死に対する恐怖、死についての態度の発達、死のプロセスなどを知り、老いの究極点である死についての理解を深める。</li> <li>8. 高齢者とのかかわり方 高齢者の生涯学習と社会参加、高齢者への精神的援助としての精神療法などについて理解する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験と出席状況により評価する</p>	

【授業科目】 障害者の心理	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近年の「障害概念」について理解し、障害のある人に関する基本的な知識と理解を得る</li> <li>2. さまざまな障害の特徴とその「理解のあり方」について理解を深める</li> <li>3. 地域生活をおくる障害のある人に生起する「心理的問題」とその援助について、事例を通して考える</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業の中で提示する</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「障害概念」の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 近年の「障害概念」の変遷とその意味するもの</li> <li>② 「障害」と生活のしづらさの関連</li> <li>③ 「障害概念」の変化と現代社会の有する問題</li> </ol> </li>   <li>2. さまざまな障害に関する基本的理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 視覚障害の特徴とその援助</li> <li>② 聴覚障害の特徴とその援助</li> <li>③ 知的障害の特徴とその援助</li> <li>④ 脳性まひの特徴とその援助</li> <li>⑤ その他の障害について</li> </ol> </li>   <li>3. 障害のある人の生活支援と心理的援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 障害のある人の生活—先天性障害と中途障害</li> <li>② 障害の「受容」と心理的援助</li> <li>③ 障害のある人の自己実現と心理的援助</li> </ol> </li>   <li>4. 現代社会における障害のある人を取り巻く現状と課題—事例を通して <ul style="list-style-type: none"> <li>・トピックスとして事例を紹介するので、グループ討議しながら問題を考える</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（持ち込み不可）、出席点</p>	

【授業科目】 家政学概論 I	【担当者】 風見公子
【開講期】 1年 前期	
<b>【授業目標】</b> 1. 身体の生理機能と栄養の関係について理解させる。 2. 高齢者、障害者（児）の栄養摂取など、食生活のあり方について理解させる。 3. 食品衛生を含んだ食品についての知識を学ばせる。 4. 調理の概要について理解させる。	
<b>【テキスト】</b> 山口和子 編著 「家政学概論Ⅱ－栄養・調理編－」 建帛社	
<b>【参考書】</b> 参考書は授業の中で、適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
1. 身体の機能と栄養素 1) 栄養摂取の意義と口腔からの食物摂取 2) 栄養素の機能とその消化吸収 3) 栄養所要量 4) 食事リズム 5) ストレスと栄養 2. 高齢者・障害者（児）と栄養 1) 高齢者の栄養と食生活のあり方 2) 障害者（児）の栄養と食生活のあり方 3) 生活習慣病予防と食事 3. 食品・調理 1) タンパク質性食品の性質と調理特性 2) 脂肪性食品の性質と調理特性 3) 炭水化物性食品の性質と調理特性 4) 食品成分の変化 5) 食品の保存性と安全性 6) 食べ物の嗜好性、おいしさ 7) 調理器具、設備、エネルギー源	
<b>【評価方法】</b> 試験もしくは課題レポート及び出席状況	

【授業科目】 家政学概論Ⅱ	【担当者】 中川 英子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人と家庭生活について、家族や社会との関係から理解すること。</li> <li>2. 家庭生活および被服生活、住居生活について、経営・管理する能力を養うこと。</li> <li>3. 介護の基礎となる高齢者・障害者の生活について、幅広い知識を得ること。</li> <li>4. プロの介護福祉士として、生活の多様な実務に対応できる人材を育成すること。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>最新介護福祉全書10巻 家政学概論 (株)メヂカルフレンド社 平成12年</p>	
<p>【参考書】 図説 家庭科資料集 岩崎芳枝 監ほか 実教出版(株) 1998年 その他、授業中に随時提示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2～6 回 個人と家庭生活 ：個人の生活と家庭や社会との関係、家庭生活や生活設計の意義などを学ぶことによって、高齢者・障害者の家庭生活の特徴と問題点を理解する。 Ⅰ 家庭生活の基礎的知識 Ⅱ 高齢者・障害者の家庭生活の問題点と特徴</p> <p>第 7～10回 衣生活 ：生活の中での被服の役割、素材や選び方、管理の仕方などを学ぶことによって、高齢者・障害者の被服生活の特徴と問題点を理解する。 Ⅰ 衣生活の基礎知識 Ⅱ 介護と衣生活</p> <p>第11～14回 住生活 ：住まいの機能を理解し、日本の住生活の課題を踏まえた上で、快適な住生活について考える。さらに高齢者や障害者の理想的な住まいとそのための福祉制度や介助の在り方を理解する。 Ⅰ 住生活の基礎知識 Ⅱ 高齢者・障害者と住生活</p> <p>第 15 回 総括および介護福祉士国家試験模擬テスト問題「家政学概論」のチェック</p> <p>注) 上記の授業計画は、授業の実施回数によっては変更もありうる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">       模擬テスト「知ってますか生活知識」     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">       ビデオ        ・「あのころの日本」        (戦後～昭和30年代初頭)        ・各種の消費者問題ビデオ        教 材        ・生活設計ワークシートほか     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">       ビデオ        ・「あのころの日本」        (昭和30年代前半)        ・「繊維って何だろう」ほか        教 材        ・繊維サンプル        ・各種洗剤・漂白剤サンプルほか     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">       ビデオ        ・「あのころの日本」        (昭和30年代後半)        ・「住まいの工夫」        ・「お年寄りに優しい住まい作り」        ・「住環境と福祉機器」     </div>
<p>【評価方法】</p> <p>期末テスト・課題に加えて、授業態度・出席率なども評価の対象とする。</p>	

【授業科目】 医学一般 I	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人体の解剖・生理を中心に学習する。これらを基礎として、肢体不自由や内部障害・加齢現象や加齢による障害の理解をはかる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>からだの構造と機能 A. シェフラー ,S. シュミット著 (西村書店)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 人体の構造と機能 エレインN. マリープ著 (医学書院)</p> <p>介護福祉士養成講座 10 医学一般 (中央法規)</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 人体の解剖学・生理学—人体の各部の名称と構成、機能の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 脳・神経系</li> <li>2) 循環器系</li> <li>3) 呼吸器系</li> <li>4) 消化器系</li> <li>5) 泌尿器系</li> <li>6) 生殖器系</li> <li>7) 内分泌系</li> <li>8) 血液系</li> <li>9) 感覚系</li> <li>10) 運動系</li> </ol> <p>2. 肢体不自由や内部障害の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 肢体不自由とは <ol style="list-style-type: none"> <li>① 脳卒中後遺症による肢体不自由</li> <li>② 脳性麻痺、脊髄損傷、慢性関節リウマチによる肢体不自由</li> </ol> </li> <li>2) 内部障害の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 心機能障害</li> <li>② 呼吸機能障害</li> <li>③ 腎機能障害</li> <li>④ 消化器機能障害</li> </ol> </li> </ol> <p>3. 高齢者の心身機能障害に対する理解</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点と筆記試験</p>	

【授業科目】 医学一般Ⅱ	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1年 後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 人体の構造と機能の総合的理解をはかる。 2. 胎生期から老年期に至る発達・成長・加齢現象の理解を基礎として、高齢者と高齢者疾患に対する理解を深め、その対処法を習得する。 3. 福祉現場で遭遇する代表的疾患の理解をはかる。	
<b>【テキスト】</b> 介護福祉士養成講座 10 医学一般 (中央法規)	
<b>【参考書】</b> ベッドサイドマニュアル 成人内科看護 (中央法規) エキスパートナース 内科疾患看護マニュアル (小学館) 看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者 (中央法規)	
授 業 計 画	
1. 各器官の構造と機能の理解と、臓器相互関係の理解も図る。 2. 胎生期から老年期に至る発達・成長・加齢現象の理解 ①老人特有の症候の理解と対処法 1) 意識障害 2) 不眠 3) 転倒 4) 尿失禁 5) めまい 6) 誤嚥 7) 腰痛 8) 脱水・浮腫 9) 便秘 10) decubitus 11) 譫妄 12) 手足のしびれ など ②老年者の救急疾患と対策：心臓血管系疾患・精神神経疾患・呼吸器疾患・ 消化器疾患での救急時の症状理解とその対処法の修得。 ③ターミナルケア：ターミナルケアの捉え方と理想的なターミナルケアの在り方を考える 3. 代表的疾患の概要 1) 循環器系；高血圧・虚血性心疾患・心不全・不整脈など 2) 脳・神経系；脳血管障害・神経痛・末梢神経障害・パーキンソン病・脳性麻痺 脊髄小脳変性疾患・筋疾患・など 3) 内分泌・代謝系；糖尿病・痛風・甲状腺機能亢進症と低下症・高脂血症など 4) 腎・泌尿器系；尿路感染症・前立腺肥大症・前立腺癌・膀胱癌・腎不全など 5) 血液系；貧血・成人 Tcell 白血病・悪性リンパ腫など 6) 呼吸器系；肺炎・結核・インフルエンザ・ARDS 7) 消化器系；肝炎・出血性大腸菌感染症・消化性潰瘍など 8) 各種感染症；法定伝染病・指定伝染病・食中毒・日和見感染・MRSA など 9) 筋・骨・関節系；骨折・脊髄損傷・骨粗鬆症・変形性脊椎症・慢性関節リウマチなど 10) 癌・生活習慣病 11) 難病・先天性疾患	
<b>【評価方法】</b> 出席点と筆記試験	



【授業科目】	精神保健	【担当者】	中川 和美
【開講期】	1年 前期		
【授業目標】	1) 精神保健の意義および目的の理解 2) ライフサイクルにおける精神保健の役割理解		
【テキスト】	特に指定しない		
【参考書】	精神保健ハンドブック 山下格著（日本評論社） 精神医学サブノート 武正建一（南江堂）		
授 業 計 画			
<p>* 授業課題</p> <p>1) 精神的な健康を維持・増進するにはどのように考えたり行動したりしていけばよいかについて、身近な人を対象にして検討する機会をもち、精神保健の意義および目的を理解する。</p> <p>2) ライフサイクルの各時期に特有なこころの健康の問題や精神障害について学び、早期発見および治療の必要性や社会復帰訓練や生活支援などの福祉活動を理解する。</p> <p>* 授業内容（予定）</p> <p>1) 精神保健概論  2) ライフサイクルの各時期のこころの問題と精神障害  3) 精神保健活動の実践</p>			
【評価方法】	1) 授業中のプリント提出 2) 学期末筆記試験		

【担当科目】 介 護 概 論 I	【担当者】 関谷 榮子
【 開講期 】 1 年 前 期	
<b>【授業 目標】</b> 1. 介護の目的と機能、介護援助の基本原則を理解する。 2. 人間の発達と自立的生活の過程についての知識を持ち、高齢者や障害者の介護並びにその家庭に対する援助について学ぶ。 3. 介護を行うに際して必要な援助方法の理論と実際を学ぶ。	
<b>【テキスト】</b> テキスト 介護概論 メジカルフレンド社	
<b>【参考書】</b> 講義の中で随時紹介する。ビデオ教材なども紹介する。	
授 業 計 画	
1. 介護の概念 1) 介護の目的・定義 (根拠法律 社会福祉士・介護福祉士法 自立支援 人権尊重、生活の質) 2) 介護の倫理 (職業倫理、守秘義務、信用失墜行為の禁止) 3) 介護の領域 (関係領域、関係職種との連携) 4) 介護の歴史 (我が国と外国の介護状況) 2. 介護援助の方法 1) 介護援助の原則 (自己決定 自己選択、自立生活援助、文化的・社会的な生活援助) 2) 介護援助関係 (対人援助の技法 日常生活援助) 3) 介護過程 (科学的問題解決法、個別介護援助計画) 4) 介護援助技術 (観察、ニーズ把握、コミュニケーション、記録、報告) 3. 介護援助の対象 1) 利用者の理解 (高齢者及び障害者の心理と身体的特徴の理解) (老いとはなにか、一人一人の歴史を知る) (障害者とはどういう人か) 2) 利用者の援助課題 (身体的生活援助 文化的社会的な生活援助) (1) 自立的な生活維持に対するニーズと介護の機能 (2) 健康のメカニズムと健康障害時のニーズと介護の役割 (3) 高齢者、障害者(児)の生活障害と介護の役割 (4) 終末ケア、緊急時の対応における介護の役割 (5) 個別ケアの進め方、受け持ち利用者の介護計画 4. 介護管理 1) 環境の整備 2) 安楽と安全 3) 社会生活の維持と拡大 4) 生活リズムと健康習慣の維持 5) 労働安全、事故防止	
<b>【評価方法】</b> レポート 及びペーパー試験	

【担当科目】 介護概論Ⅱ	【担当者】 関谷 榮子
【開講期】 1 年 後 期	
<p>【授業 目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護を必要とする人たちの身体・精神的健康状態の変化に対応した、介護援助サービスの提供方法、提供の場について理解する。</li> <li>2. 介護と家政、看護・医療など関係領域や関係職種との連携について理解する。</li> <li>3. 個別介護計画及び、ケアプランの作成方法を学び、ケア・マネジメントについて理解する。</li> <li>4. 介護サービス提供の場について理解する。</li> <li>5. 自己の介護観を確立する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">テキスト      介護概論      メジカルフレンド社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考】      講義の中で随時紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護活動の場に特有の問題と介護の技法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入居型福祉施設（長期、短期）</li> <li>2) 居宅型福祉施設、（在宅支援センター、デイサービス、ホームヘルプサービスなど）</li> <li>3) 地域における福祉関係者との連携・協力方法 －介護実習Ⅰと関連づけて介護の技法を学ぶ－</li> </ol> </li> <li>2. 個別介護計画（ケアプラン）の立て方と応用方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護計画と記録の方法、活用方法、評価方法</li> <li>2) ケース・カンファレンスの方法</li> <li>3) ケア・マネジメントの方法</li> <li>4) ケアプランの作成と応用の方法を学ぶ</li> </ol> </li> <li>3. 関係機関と関連領域との連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護と家政、看護・医療、家政管理、栄養調理、リハビリテーション部門の特徴と連携方法について学ぶ。</li> <li>2) 地域関係機関との連携・地域ケア部門との連絡連携</li> </ol> </li> <li>4. 地域ケアと在宅ケア ホームヘルプ活動 ホームヘルパーとは</li> <li>5. 介護観の確立へ向けての自己学習課題の設定</li> <li>6. 先進的事例について学ぶ。</li> </ol>	
<p>【評価方法】      レポート    及びペーパー試験</p>	

【授業科目】 介護技術 I	【担当者】 土川洋子・西方規恵
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】 (介護技術 I II III 共通)</p> <p>1 介護技術の習得に際しては、下記の 2 点を目標にする。</p> <p>1) それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ。</p> <p>2) 利用者の自立と安全・安楽に配慮した基礎的介護技術ができる。</p> <p>2 介護に適した住まい、住設備機器及び福祉用具について学ぶ。</p> <p>3 介護過程の展開方法について学ぶ。</p>	
【テキスト】 新版 介護福祉士養成講座「介護技術 I・II」中央法規出版	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1 コミュニケーションの技法</p> <p>1) 傾聴</p> <p>2) 面接時の洞察、共感の技法</p> <p>3) 言葉や身振りの理解と問題確認の技法</p> <p>4) 自己の役割を伝え、納得と合意をうる表現技法</p> <p>2 状態の変化の確認と不調のきざしの発見の技法</p> <p>1) 眠り方や目覚めの状態の変化</p> <p>2) 体温、脈拍、呼吸、皮膚の状態の変化</p> <p>3) 嚥下の状態や排泄物の変化</p> <p>4) 状態に対する理解力、判断力の変化</p> <p>5) 感情の変化</p> <p>6) 視覚、聴覚及び知覚の変化</p> <p>3 安全で危険のない住まいや居住環境の整え</p> <p>1) 移動スペースに応じた住まいの配置、位置、高さ</p> <p>2) 浴室、トイレ、台所等の居住環境の整え</p> <p>3) プライバシー空間の設営</p> <p>4) 衣類、寝具の衛生管理並びに掃除、ベッドメイキング</p> <p>4 社会生活維持拡大への技法</p> <p>1) 体位交換と安楽な体位の工夫 (用具の用い方)</p> <p>2) 歩行介助、車椅子、ストレッチャー介助</p> <p>3) ベッド上の座位、立位の介助</p> <p>4) 機能維持の運動と機能訓練への援助 つどい、外出、遠出など</p>	
【評価方法】 レポートとテストにより評価する。	

【授業科目】 介護技術Ⅱ	【担当者】 土川洋子・西方規恵
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>(介護技術ⅠⅡⅢ共通)</p> <p>1 介護技術の習得に際しては、下記の2点を目標にする。</p> <p>1) それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ。</p> <p>2)</p> <p>3) 利用者の自立と安全・安楽に配慮した基本的介護技術ができる。</p> <p>2 介護に適した住まい、住設備機器及び福祉用具について学ぶ。</p> <p>3 介護過程の展開方法について学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>新版 介護福祉士養成講座「介護技術」Ⅰ・Ⅱ 中央法規出版</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 衣服の着脱</p> <p>2 食事</p> <p>食事場所や食器等用具の整え、姿勢や口の状況に適した介助、好みへの配慮と食事量の観察、誤嚥防止・脱水防止</p> <p>3 身体の清潔</p> <p>口、目、耳、鼻、爪、頭髪等の清潔法、清拭法（全身・部分）、部分浴（手浴・足浴）、入浴法（家庭浴槽、簡易浴槽、機械浴、一般浴）</p> <p>4 排泄</p> <p>トイレでの排泄介助、ポータブルトイレ・便器・尿器による排泄介助、自立度に応じた衣類寝具の選択と介助、失禁時の対応と排泄自立への配慮と介助、便秘・下痢の対応、おむつ交換</p> <p>5 安楽と安寧の技法</p> <p>指圧・マッサージ、あん法、安眠への援助</p> <p>6 福祉用具の概要と活用</p> <p>福祉用具の意義・概要、選択、活用及び管理にかんする援助</p> <p>7 医療、看護対応時の介助</p> <p>受診時の介助、薬の管理と与薬時の介護</p> <p>8 じょく創予防と創の手当ての基礎知識</p> <p>9 感染予防</p> <p>10 終末期の介護</p> <p>11 緊急事故時の対応</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートとテストにより評価する。</p>	

【授業科目】 介護技術Ⅲ	【担当者】 土川洋子・西方規恵
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>(介護技術ⅠⅡⅢ共通)</p> <p>1 介護技術の習得に際しては、下記の2点を目標にする。</p> <p>1) それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ。</p> <p>2)</p> <p>3) 利用者の自立と安全・安楽に配慮した基本的介護技術ができる。</p> <p>2 介護に適した住まい、住設備機器及び福祉用具について学ぶ。</p> <p>3 介護過程の展開方法について学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>新版 介護福祉士養成講座「介護技術」Ⅰ・Ⅱ 中央法規出版</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 体温・脈拍・呼吸・血圧の測定法</p> <p>2 介護過程の展開</p> <p>1) ケアマネジメントとケアプラン</p> <p>2) ケアプランと介護過程</p> <p>3) 例に基づく介護過程の展開</p> <p style="padding-left: 40px;">アセスメント、介護計画の作成、実施、評価</p> <p>3 記録のとり方と報告のしかた</p> <p>1) 記録の種類と方法、保管</p> <p>2) 報告のしかた</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">レポートとテストにより評価する。</p>	

(授業科目)	形態別介護技術 I (老人)	(担当者)	奥津 竹子
(開講期)	1年 前期		
<p>「授業目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 加齢による身体的・精神的変化を理解する。</li> <li>2 人間の成長過程をそれぞれの世代に応じた特徴をつかみ高齢期の現状を知る</li> <li>3 社会的・経済的状況を把握し、高齢者の生活を総合的にとらえる。</li> <li>4 高齢者の尊厳を守り、自己決定を尊重する、人生の先輩である高齢者から学ぶ。</li> <li>5 高齢者の自立支援に向けての技術を習得する。</li> <li>6 加齢にともなう機能低下による生活障害、疾病からくる障害などを科学的に理解し、援助技法を学ぶ</li> </ol>			
(テキスト) 形態別介護技術 中央法規出版			
<p>(参考書)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ジョン・P・スローン訳者 藤沼 康樹「プライマリケア老年医学」プリメド社</li> <li>2 窪田暁子「小春日和の午後 ケアの思想を読む」ドメス出版</li> <li>3 カルドマ 木村哲子「アルツハイマーよ、こんにちは」誠信書房</li> </ol>			
授 業 計 画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学生の身近かな高齢者から、生い立ちより現在までの生活史の聴き取りを行い高齢者像を具体的に理解する。</li> <li>2 卒業生のケーススタディ まとめられた事例から学び、介護場面を通して高齢者の特徴を学ぶ。様々な障害や疾病により、介護・介助を必要としている高齢者の生活支援（自立支援）の技術を習得する。</li> <li>3 入所施設、通所施設・在宅など介護現場で事例を通して介護技術の実際を学ぶ。</li> <li>4 具体的介護をすすめるための福祉制度、社会資源（フォーマル、インフォーマル）連携する専門職集団について理解し、高齢者へのネットワークづくりを学ぶ</li> </ol>			
「評価方法」 レポート及びテストにて行う			

【担当科目】形態別介護技術Ⅱ（内部障害・肢体不自由）	【担当者】 落海 文子
【開講期】 1 年 後 期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肢体不自由・内部障害に関する医学的基礎知識を習得する。</li> <li>2. 肢体不自由者(児)・内部障害者の生活・心理を理解する。</li> <li>3. 肢体不自由者(児)・内部障害者に対する日常生活上の介助・介護方法を体系的に理解する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキスト 障害形態別介護技術 (中央法規出版KK)</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考書、資料、ビデオなどを講義のなかで随時紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肢体不自由・内部障害を起こす原因、疾患、障害の状態の理解と合併障害の把握</li> <li>2. 肢体不自由者(児)・内部障害者の生活上の障害の特徴</li> <li>3. 障害を持つ人々の心理や行動特徴</li> <li>4. 肢体不自由者(児)・内部障害者のニーズに合った介護技術とQOL向上をめざした生活支援の方法</li> <li>5. 介護に必要な福祉用具の知識と活用方法</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点・レポート・筆記試験にて評価する。</p>	



【授業科目】 形態別介護技術Ⅴ（聴覚障害）	【担当者】 奥田 啓子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聴覚障害に関する医学的基礎知識を習得する。</li> <li>2. 残存感覚機能を理解し、福祉機器の活用法を習得するとともに、音声言語に代わるコミュニケーション方法について理解する。</li> <li>3. 聴覚障害者の生活・心理に配慮した介護のあり方を考える。</li> <li>4. 他の障害をあわせ持つ重複障害者の介護について考える。</li> </ol>	
<p>【テキスト】 「手にことばを(初級)」 東京都聴覚障害者連盟発行</p>	
<p>【参考書】 「わたしたちの手話(1)」 全日本ろうあ連盟 発行      その他、講義の中で随時紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p><b>講義</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聴覚障害の原因・種類・程度と聴覚障害者の日常生活</li> <li>2. 聴覚障害者のコミュニケーション方法</li> <li>3. 介護上の諸問題への対応(具体的な事例を通しての考察)</li> <li>4. 残存感覚機能を活用するための福祉機器について</li> <li>5. 聴覚障害者と社会生活</li> </ol> <p><b>手話実技</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手話の基礎的単語と指文字の習得</li> <li>2. 自己紹介</li> <li>3. 簡単な日常会話</li> <li>4. 介護場面で想定される会話の手話表現練習</li> </ol> <p style="text-align: center;">* 聴覚障害による日常生活・社会生活上の様々なバリアに対する理解を深め、介護場面での聴覚障害者への対応について学んで欲しい。積極的な姿勢で講義に臨むことを期待する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点と筆記試験によって評価する。</p>	

【担当科目】 介護実習 I	【担当者】 関谷榮子・西方規恵・土川洋子・新井幸恵・落海文子 大瀧法子・鷹野直子
【開講期】	1 年 後 期
<b>【授業 目標】</b> 介護実習第 I 期 (1) 利用者が施設を利用することになった経過や現在の生活状況を把握し、個別的な介護がどのように行われているかを知る。 (2) 施設における介護職員の役割を理解し基礎的な介護技術を習得する。 (3) 施設の概要を理解し、施設職員の職種と業務内容を知る。	
<b>【テキスト】</b>  実習要項他	
<b>【参考書】</b>	
実 習 計 画	
1. 施設の沿革、方針、建物の構造、業務内容、職員の勤務体制、職員構成、サービス内容、などについて理解する。 2. 介護者の援助の視点と方法を把握し、施設職員にふさわしい態度を身につける。 3. 利用者について理解する。 4. 利用者とのコミュニケーションの方法を習得する。 5. ボデイランゲージなどの非言語的コミュニケーションの有効な活用方法を習得する。 6. 日常生活の援助の方法を習得する。 7. 学生自身が見聞あるいは体験した介護技術の目的と意義を理解する。  実習期間 平成14年11月4日から22日までの15日間 実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。	
<b>【評価方法】</b> 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【担当科目】 介護実習 Ⅱ	【担当者】 関谷榮子・西方規恵・土川洋子・新井幸恵・落海文子・大瀧法子・鷹野直子
【開講期】	1 年 後 期
<b>【授業 目標】</b> 介護実習第Ⅱ期 (1) 利用者の障害のレベルと内容に応じた介護技術を習得する。 (2) 施設における他職種の業務の実際について学び連携の意義と方法を知る。 (3) 地域社会における施設の役割を理解し在宅福祉サービスの各事業とその機能について学ぶ。 (4) 受け持ち利用者を選定しアセスメント(情報収集と介護上の問題の明確化)ができる。	
<b>【テキスト】</b> 実習要項他	
<b>【参考書】</b>	
実 習 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の沿革、方針、建物の構造、業務内容、職員の勤務体制、職員構成、サービス内容、などについて理解する。</li> <li>2. 利用者の障害に応じた個別的な介護技術を習得する。</li> <li>3. 他職種との連携方法を学ぶ 生活指導員、医師、看護婦、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、の業務を学び、職種による専門性と役割を理解する。 また介護職員との連携の意義と方法を学ぶ。</li> <li>4. 地域における施設の役割を理解する。 1) ショートステイ、デイサービス、入浴サービス在宅介護支援センターなどの機能について学ぶ。</li> <li>5. 受け持ち利用者のアセスメントの方法を学ぶ。 1) 実習終了までに実習指導者の助言を得て受け持ち利用者の情報収集をする。 2) 受け持ち利用者の介護上の問題を把握する。 その際には利用者の持つ力を引き出し強めるような援助の視点を修得する。</li> <li>6. ケース会議に参加し利用者のケアプランが作成評価される過程を学ぶ。</li> <li>7. 行事・レクリエーション活動への参加 行事レクリエーション活動に参加し、企画・実施・評価のプロセスを学ぶ。</li> </ol> <p>実習期間 平成15年2月17日から3月7日までの15日間          実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。</p>	
<b>【評価方法】</b> 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【担当科目】 実習指導 I	【担当者】 関谷榮子・西方規恵・土川洋子・新井幸恵・落海文子・大瀧法子・鷹野直子
【開講期】	1 年 後 期
<b>【授業 目標】</b> (1) 第 I 期介護実習において知識・技術を学び各自の介護福祉士としての自己覚知を深める。 (2) 介護実習の意義と重要性について理解する。 (3) 介護実習の事前学習を通じて実習に必要な知識・技術、態度を身につける。 (4) 専門的介護知識、技術を深め第 II 期実習の学習課題を準備する。	
<b>【テキスト】</b> 実習要項他	
<b>【参考書】</b>	
授 業 計 画	
<p>&lt;実習前準備&gt;</p> <p>配属施設の決定 (7月)</p> <p>1. 介護実習第 I 期に向けての準備 (9月より)</p> <p>1) 実習前のオリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習目的の理解</li> <li>・学生の自己学習目標をたてる。</li> </ul> <p>2) 実習の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・守秘義務、実習生としての態度、対人援助技術を身につける。</li> <li>・見学実習の意義を理解する。</li> </ul> <p>3) 事前学習、事前オリエンテーション</p> <p>4) 実習記録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の意義と書き方</li> <li>・記録の取扱い方</li> </ul> <p style="text-align: center;">— 第 I 期介護実習 (11月4日～11月22日まで) —</p> <p>&lt;実習後&gt;</p> <p>3. 第 I 期実習後のスーパービジョン</p> <p>1) グループスーパービジョン</p> <p>2) 記録の評価</p> <p>3) 実習のまとめ 自己評価</p> <p>4) 個別面接</p> <p>4. 第 II 期実習に向けての準備</p> <p>1) 配属施設の決定 (12月)</p> <p>2) 介護過程 (介護計画の立案、実施、評価) についての学習</p> <p>3) 個別面接</p> <p style="text-align: center;">— 第 II 期介護実習平成15年2月17日 (月) - 3月7日 (金) —</p> <p>第 II 期実習後のスーパービジョン (3月12日)</p> <p>1) グループ討議</p> <p>2) 実習のまとめ</p>	
<b>【評価方法】</b> 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【担当科目】 福祉研究入門	【担当者】 関谷 榮子、明渡 陽子、山口 尚子、西方 規恵、土川 洋子
【開講期】 1 年 前 期	
<b>【授業 目標】</b> 1. 福祉研究に対する関心を深め初歩的な研究的態度を学ぶ。 2. 文献抄読、文献研究の初歩的な方法を理解する。 3. 小グループのディスカッションを体験して、人の意見を傾聴し、自分の考えをまとめる方法を学ぶ。	
<b>【テキスト】</b> 1. 小山内美智子『あなたは私の手になれますか?』中央法規出版¥1500 2. 阿部初枝『たまゆらの－老人の性を考える－』日本看護協会出版会¥1500 3. 未定	
----- <b>【参考書】</b>	
授 業 計 画	
授業の初日にオリエンテーションを行う。	
4/9	グループの発表と自己紹介を行う。『あなたは私の手になれますか?』の紹介、ビデオ鑑賞
4/16	第1回 『あなたは私の手になれますか?』第Ⅰ章
4/23	<新入生オリエンテーションセミナー>に全員出席すること。
4/30	第2回 『あなたは私の手になれますか?』第Ⅱ章
5/7	第3回 『あなたは私の手になれますか?』第Ⅲ章
5/14	第4回 『あなたは私の手になれますか?』第Ⅳ章
5/21	第5回 『－たまゆらの－老人の性を考える－』1-42ページ
5/28	第6回 『－たまゆらの－老人の性を考える－』43-87ページ
6/4	第7回 『－たまゆらの－老人の性を考える－』88-134ページ
6/11	第8回 『－たまゆらの－老人の性を考える－』135-188ページ
6/18	第9回 未定
6/25	第10回 未定
7/2	第11回 未定
7/9	第12回 未定
7/16	第Ⅰ期介護実習 オリエンテーション 実習施設の配属先発表
<b>【評価方法】</b> 出席点、 レポート・その他により評価する。	

[授業科目]	家族福祉論	[担当者]	沖倉智美
[開講期]	1年 後期		
[授業目標]	<p>私たちの生活とその生活と重要な拠点としての家庭は、社会福祉と非常に関連性があります。少子高齢化を始めとした社会の変動は、家族にさまざまな影響を与えています。この授業では、実際の事例を紹介しながら、児童・障害者・高齢者等を含む家族のあり方を皆さんと一緒に考えます。</p>		
[テキスト]	授業中に随時資料プリントを配布する予定です。		
[参考書]	必要に応じて、授業中に紹介します。		
授 業 計 画			
<p>第 1回 ガイダンス (私たちの生活と社会福祉)</p> <p>第 2回 高齢者と家族 (高齢社会の現状と課題)</p> <p>第 3回 高齢者と家族 (施設福祉サービスの現場で)</p> <p>第 4回 高齢者と家族 (在宅福祉サービスの現場で)</p> <p>第 5回 子どもと家族 (少子化の現状と課題)</p> <p>第 6回 子どもと家族 (結婚と出産)</p> <p>第 7回 子どもと家族 (子育てと社会福祉)</p> <p>第 8回 障害者と家族 (家族の立場から)</p> <p>第 9回 障害者と家族 (当事者の立場から)</p> <p>第 10回 障害者と家族 (施設福祉サービスの現場から)</p> <p>第 11回 社会福祉サービスと家族</p> <p>第 12回 家族支援の社会化 (成年後見制度の現場から)</p> <p>第 13回 地域社会と家族</p> <p>第 14回 まとめ</p>			
[評価方法]	<p>期末にレポート課題を出しますが、授業中に提出してもらった小レポートの提出状況を勘案し、最終的な評価を決定します。</p>		

【授業科目】 カウンセリング	【担当者】 林 潔
【開講期】 1年前期	
<b>【授業目標】</b> カウンセリングの基礎について紹介します。	
<b>【テキスト】</b> なし	
<b>【参考書】</b> 随時紹介します。	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>           カウンセリングは基本的には話し合い療法です。ただ助言をすることだけではありません。それでは話をすることによって、どんな意味があるのでしょうか。            今日のカウンセリングの基礎として、Rogersの来談者中心カウンセリングと日常生活にも活用できる認知行動療法のきそについて紹介します。         </p> <p> <b>基本的内容</b> </p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 話をすることによってどういう意味があるの</li> <li>2. カウンセリング・心理療法の流れ</li> <li>3. VTR カウンセリングの進め方</li> <li>4. なぜ人は不適応になるのか(Rogersのモデル) 1</li> <li>5. 同 2</li> <li>6. 考えることの持つ意味</li> <li>7. 現実的な見方をしているだろうか</li> <li>8. 認知行動療法の方法 1</li> <li>9. 2</li> <li>10. ストレスと健康</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 平常点、指定図書のリポート、中間試験、期末のリポートで評価します。	

【授業科目】発達心理学	【担当者】堀江まゆみ
【開講期】1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の発達に関する基礎的な知識について学び、老いにいたる過程を含めて生涯発達の視点から理解を深める</li> <li>2. 子どもや老人の発達・生活を支援するために、周囲の支援者が果たす役割について考える</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業の中で提示する</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達とは何か？ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達の捉え方と発達過程・課題</li> <li>・ 生涯発達と、発達のメカニズム</li> <li>・ 発達をはぐくむものと阻害するもの</li> </ul> </li>   <li>2. 発達のプロセス <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳・幼児期の発達とその特徴</li> <li>・ 児童期の発達とその特徴</li> <li>・ 青年期の発達とその特徴</li> <li>・ 老年期の発達とその特徴</li> </ul> </li>   <li>3. 生涯発達で注目する発達課題について考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期：人とかかわりを豊かにするもの—対人関係とコミュニケーションの発達</li> <li>・ 児童期・青年期：自分らしさをつくるもの—自己の発達と人格—</li> <li>・ 老年期：人生の選択と決定を支えるもの</li> </ul> </li>   <li>4. まとめ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（持ち込み不可）、出席点</p>	



[授業科目名]	遊びの造形	担当者 枝常 弘 八木 絃一郎
[開講期]	1 年 後 期	
[授業目標]	人間の生きる力の源泉ともいえる「遊び心」と表現文化性を豊かに活性化させるために欠かせない知識と、基本的に必要な介護士自身のための表現文化的なセンスとテクニックを高めることを目指す。	
[テキスト・参考書]	なし	
<b>授 業 計 画</b>		
人は、高齢者になっても遊びや表現文化的な充足感を満たせるように援助する必要がある。とかく、身の介護援助に追われがちであるが、文化的存在としての一人ひとりの個性的な欲求充足を満たせるように、援助者のセンスとテクニックが求められる。		
特に「 <b>遊び心</b> 」は重要な生きる活力である。その「遊び性」を豊かに楽しみ充足していけるように企画、運営、援助していくことが非常に重要な介護士のしごとである。そのために欠かせないのは介護士自身の遊びセンスとテクニックである。昨今の若者たちの遊びセンスとテクニックを磨いていくための講座となる。		
この授業は選択であるが、担当講師である「枝常弘・八木絃一郎」の二人は、「のっぽさんとゴン太」でおなじみの造形番組 <b>NHK テレビ『できるかな』</b> を制作担当してきた経歴を生かして、高齢者のための「遊びの造形」アイデアを提供する。		
授業内容は		
1、身近な素材		
<b>紙を使って・・・遊びを創りだす</b>		
飛んだり、転がったり、立ったりする、うごきのしかげや、物語的な遊びのしかげ		
2、動物や人の描き方とポップアップカードの作りかた		
3、高齢者のための誕生カードづくり		
できれば <b>手づくりで遊べるゲーム盤づくりにもチャレンジする。</b>		
[評価方法]	平常点	

【授業科目】シニアの音楽とダンス	【担当者】秋山治子
【開講期】1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>音楽のある生活を、心やすらげる空間と時間に作り上げて、高齢者に提供することを考え、工夫する。そのための音楽性、音楽する力等を養うために音楽療法的なセッションを実際に行ってみたり映像を観る等して学習していく。</p> <p>授業の方法は昔の歌や高齢者がよく歌っていた曲などを知るために歌ったり、楽器を使ったやさしい遊びを考えたりする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「キラッと歌って」秋山治子 高林真理共著 共同音楽出版社</p> <p>【参考書】</p> <p>「高齢者の音楽療法」貫 行子著 音楽之友社</p>	
授 業 計 画	
<p>① 授業の概要の説明 高齢者に人気の“昔のうた”を歌う</p> <p>② 前回と同様に、高齢者に人気の歌を歌う（CDに収録されている曲があるときはそれを聴いてイメージなどを出し合いながら進めていく</p> <p>③ 療育音楽等のビデオを観て、様々な障害を持つ高齢者が楽器を楽しむことについて話し合う</p> <p>④ 学生自らも色々な楽器に親しむことを経験する</p> <p>⑤ 大正琴他色々な打楽器などと歌や楽曲とを結び合わせて楽しみ方を考案する</p> <p>⑥ 同上</p> <p>⑦ 同上</p>	
<p>【評価】</p> <p>① 出席状況、 ② 授業の取り組み方 ③ レポート</p>	

【授業科目】 シニアの音楽とダンス (ダンス)	【担当者】 有川 いずみ
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>本来人間がもっていた自由な身体の動きをみつける作業を通して、言葉を越えた身体と身体のコミュニケーションを体験し、さるさる状況にある人々と踊る楽しさ、表現する喜びを共有できる方法を探求する</p>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 身体で表現することの意味と意義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活で見られる身体表現とダンス</li> <li>・ ひとりひとりの創造的な発案を生につなげる身体表現とダンス</li> </ul> <p>(2) ダンスプログラムの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リズミカルに身体を動かす</li> <li>・ グループでダンスを楽しむ</li> <li>・ 道具を使って踊る</li> <li>・ 即興でイメージを表す</li> <li>・ 作品づくり</li> </ul> <p>(3) 感性や創造性を分ちあう援助</p>	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業に対する取り組み方、出席</li> <li>2. 授業中に行う実技試験と平常点</li> </ol>	



教養教育科目（2年）



●2002年度シラバス変更(4)

【授業科目】文学芸術・フィクションと人間	【担当者】中島好伸
【開講期】1年前期 / 1年後期	
<p>【授業目標】          文学作品とは何か、この大きなテーマを作者、テキスト、読者の観点から眺めてみる。          そしてフィクションが生身の人間にどう作用するのかを考えてみよう。</p>	
<p>【テキスト】          プリントを使って講義する。</p>	
<p>【参考書】          必要に応じて講義の中で紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>文学作品を読むのも人間ならば、その作品を生み出したのも人間である。そして、多くの場合、登場「人物」または主「人」公と呼ばれる存在も人間だ。従って、それらの誰もが「わたし」という思いを持っている。この「わたし」という得体も知れない存在を捉えることからこの講義を始めていく。</p> <p>はじめに「日記」を書いてみよう。これは事実あったこととそれに対する思いだ。もしも未来の日記を書くとしたら、それはフィクションということになってくる。フィクションは願望なのだろうか……？</p> <p>こんなふうに話を進めながら、文学作品(テキスト)と作者、文学作品と読者の関係を紐解いていく。話を具体的にするために、O・ヘンリの短編小説「賢者の贈り物」を細部にこだわりながら読みつつ、次の順で講義を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「わたし」と他者</li> <li>視点・語り手</li> <li>作品内空間(時間、場所)</li> <li>人物描写(登場人物の性格)</li> <li>プロット(語り手の選択)</li> <li>物語の蓋然性・フィクション</li> <li>歴史的背景と作者</li> <li>テキストと読者(印象批評)</li> <li>批評と文学史</li> <li>この世はフィクション?(メタ・フィクション)</li> <li>「わたし」を構成する他者の言葉・乱読の勧め</li> </ul> <p>講義のあと文学作品の読み方がどう変わったか、自分の好きな作品を題材にしてレポートを書いてもらう。</p>	
<p>【評価方法】          レポートに出席点を加味して評価する。</p>	

●2002年度シラバス変更(1)

【授業科目】 近現代の日本文学	【担当者】 高原二郎
【開講期】 1年・前期	
<p>【授業目標】</p> <p>近現代の歴史の流れの中で、文学はどのように責任を果たそうと努めてきたか、現実社会の困難な課題にどのように対応してきたのか。ここでは明治・大正・昭和(戦前・戦後)に渉る重い課題をいくつかとり上げ、作品理解をテコにしてそれぞれの課題について考える。</p> <p>出席者ひとりひとりの心が、どれかひとつの課題に衝突することを以って目標とする。なお、文学史的な流れは展開の中で触れる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>用いない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>展開の中で示すことはあるが、特に指定しない。「読書」は義務とはしない。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>ひとまず以下の項目を用意するが、羅列的な講義はしない。出席者の興味・問題意識等を自由に出してもらって、自由に話がかけ巡って飛躍してくれればありがたい。疑問、珍問、愚問の中から自分なりの心の衝突が生まれて欲しいのであって、講義はそのためのネタ提供と考えて欲しい。</p> <p>(1)開化と西洋－夏目漱石・永井荷風・有島武郎・高村光太郎  (2)個人・エゴとヒューマニズム－夏目漱石・武者小路実篤・志賀直哉・芥川龍之介  (3)大逆事件と人間－石川啄木・有島武郎  (4)愛と人間苦－自然主義・私小説・有島武郎・太宰治  (5)自然と人間－国木田独歩・有島武郎・宮沢賢治  (6)制度と人間－労働運動と文学  (7)伝統と近代－谷崎潤一郎・川端康成・「近代の超克」(→桑原武夫)  (8)科学と人間(戦争と文学)－高村光太郎・峠三吉・井伏鱒二  (9)疎外と人間－石牟礼道子</p> <p>ノートは各項目の中の問題点を中心に要点をメモできるように配慮するが、各自の思考のひらめきによるメモにも期待したい。(項目すべてを消化するとは限らない)</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>各自が最低一つ、課題に取り組んで記述テスト。従って普段の展開の中で、何が面白いのか、注視して、できれば整理もつけていって、学期末にそのまま書き出せるようにするとよい。出席点はむろん評価する。</p>	



【授業科目】 世界の児童文学 (教養教育)	【担当者】 瀧口 優
【開講期】 後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 世界の児童文学を紹介しながらその思想を学ぶ。 2. 子ども観を豊かに育てる。	
<b>【テキスト】</b> 「児童文学を英語で読む」 (岩波ジュニア新書)	
----- <b>【参考書】</b> 「英米児童文学の系譜」 こびあん書房	
授 業 計 画	
1. 世界の児童文学を国別、作品別に紹介し、その一部をいっしょに読んでいく。 2. 作品例として 1) 「不思議の国のアリス」 (イギリス) 2) 「あしながおじさん」 (アメリカ) 3) 「グリム童話」 (ドイツ) 4) 「絵のない絵本」 (デンマーク) など	
<b>【評価方法】</b> ふだんの学習状況などの平常点 (出欠、予習、質問、意見発表など) とレポートで行うことを原則とするが、必要に応じてテストを行う。	

【授業科目】 源氏物語の世界	【担当者】 久保木 寿子
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本文化の真髄を表すものとして、源氏物語はいまや世界の人々に読まれている。1000年の昔の作品ながら、現代に通じる問題が豊かに形象されているからであろう。一体、何がこの作品の魅力なのだろうか。絵巻や漫画・ビデオなどを使いながら作品構造を読み解き、制約の多い社会で、&lt;どう生きるか&gt;に苦闘する男女の姿を中心に見ていく。</p> <p>文法の細部に囚われず、『源氏物語』が、`すごい`ことを知ってほしい。物語のおもしろさを知ることが、古典への第一歩である。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配布</p>	
<p>【参考書】 大和和紀『あさきゆめみし』 現代語訳源氏物語： 瀬戸内寂聴・田辺聖子・円地文子・谷崎潤一郎・与謝野晶子 橋本治『窈窕源氏物語』 源氏物語絵巻・アニメその他のビデオ etc</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 紫式部とその時代について 何故、紫式部は源氏物語を書いたのだろうか？作者の生涯と人物像を、その歌集と日記によって見ておく。また物語が書かれた時代の特徴にも簡単に触れたい。</li> <li>2, 全54帖の全体構造を知る。 授業で読み通す訳にはいかないが、そのスケールと主題について、概容を理解したい。</li> <li>3, 様々な男女の結びつきについて考える。 光源氏は、葵の上と政略結婚・若紫を略奪の上結婚・藤壺（父帝の寵妃）を強姦と、現代社会で言えば、正真正銘の犯罪者である。一夫多妻制のもとで、彼に対する女たちは何を考え、どう生きようとしていたか。</li> <li>4, 忍従と自立をめぐる問題について考える。 身分差・結婚制度の制約の中で、多くの女たちが忍従し妥協していく。一方、自分らしく生きたいと願う女たちは、苦闘の末破れていく。 ① 明石の君・② 紫の上・③ 浮舟 etc について、それぞれの人物像を探っていく。</li> <li>5, 権力構造をめぐる問題について考える。 恋愛沙汰に隠されているが、この作品は、光源氏が天皇のようなそうでもないような地位に上り詰めるまでの、予言の謎解きといった要素を持つ。 上り詰めた後の、無惨な光源氏の衰退までを書いてしまったのだが。 人間にとっていったい何が重要なことなのか、考えたい。</li> <li>6, 物語のリアリティについて考える。 言うまでもなく『源氏物語』は平安時代に作られたフィクションであるが、光源氏を実在の人と思っている人が結構いる。 何故だろうか。作品に、きわめてリアリティがあることも一因であろう 虚構された時代設定、モデルとされる人物、作品の舞台の虚実などについて考える。</li> <li>7, 源氏物語の笑いについて考える。</li> <li>8, 物語表現の美しさについて考える。</li> <li>9, 源氏物語の古代性と現代性について考える。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】 人物研究Ⅰ（和泉式部）	【担当者】 久保木 寿子
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】 紫式部に「けしからぬ」所があると評された、和泉式部をとりあげる。  和泉は「あらざらむ此の世のほかの思ひ出に今ひとたびの逢ふこともがな」（百人一首）や「黒髪<small>の</small>乱れも知らずうち伏せば先ずかき遣りし人ぞ恋ひしき」などの歌で知られ、情熱の歌人とか恋多き歌人と言われる平安時代の女性であるが、その和歌の世界は、「恋」にのみ止まらないスケールを持っている。和歌という短詩が持つ可能性や彼女の創作方法について考えたい。またそのテーマと実人生との関わりを問題にしていく。  時代のモラルと苦闘しながらも、冷徹なまなざしで自己の思いを和歌に結晶させていった一人の女性芸術家の軌跡を追い、その現代的な意味を明らかにしていきたい。</p>	
【テキスト】 プリントを配布	
<p>-----</p> <p>【参考書】 山中裕 著 人物叢書『和泉式部』吉川弘文館  増田繁夫 著 『冥き途一和泉式部伝一』世界文化社  清水好子 著 王朝の歌人6『和泉式部 恋歌まんだら』集英社  久保木 著 日本の作家13『実存を見つめる 和泉式部』新典社 ほか</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のようなことをテーマに、講義をしたいと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 悪女の評判さまざま  すでに彼女が生きていた頃から、その評判は宜しくはないが、平安以降はどうだったのか。様々な文献から、各時代の人々が思い描いた和泉式部の人物像を見ていく。</li> <li>2, 実人生を辿る  少女期の環境  最初の結婚と破綻  冷泉皇子兄弟との恋愛と死別  後宮出仕  再婚  娘との死別</li> <li>3, 実体験から和歌表現へ</li> <li>4, 恋歌と死の歌のあわい  恋歌を超える眼差し</li> <li>5, 実存のテーマと方法・  和歌の時空  「自己客体視」の方法  連作の方法</li> <li>6, 歌集と日記</li> <li>7, 仏教的心性の問題</li> <li>8, 和泉式部和歌の評価をめぐる問題</li> </ol> <p>* 古文が読めなくても、大丈夫です。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】話言葉の伝承	【担当者】東 喜 望
【開講期】 前期 または 後期 (前期と同じ内容)	
【授業目標】ここにいう「伝承」とは、「伝承文化」をさす。この授業では、その中の「伝承文芸」を対象とする。即ち、口づてに話言葉によって語り伝えられた話(神話・伝説・昔話など)を対象とする。日本・沖縄奄美・東南アジアの説話を事例としながら大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考察する。	
【テキスト】『沖縄・奄美の説話と伝承』(おうふう刊) 他に資料プリント配布、スライド等映像資料上映。	
【参考書】適宜指示する。	
授 業 計 画	
<u>講義の概要</u> 1. <u>序</u> — (1)人文科学の方法 (2)「わが国をニッポンというのはなぜか。」 — 背後に存在する国家「神話」(3)国号と環太平洋の太陽神話。 2. 「神話」・「伝説」・「昔話」とは何か。 3. <u>説話伝承の起源</u> (1)自然と人間の意識 (2)信仰と「語り」— 個人・ムラ、レベルから国家レベルへ。 (3)神話の発展— 伝説・昔話へ。 4. <u>伝承文芸の現代的意義</u>	
【評価方法】定期試験時の筆記試験。(テキスト・ノート等参照可)	

【授業科目】人物研究Ⅱ・「柳田国男」	【担当者】東 喜 望
【開講期】後期	
<p>【授業目標】柳田(旧姓・松岡)国男&lt;明治8・1875—昭和37・1962&gt;を対象とする。柳田は貧しい医師の子として、兵庫県神崎郡福崎町に生まれた。大学を卒業してのち、彼は、それまで問題にもされなかった民衆の生活とその文化を研究し日本民俗学の基礎を築いた。この授業では、柳田の生涯の行跡をたどりながら、激動の「近代」における彼の学問の成果と思想の意義を明らかにしていきたい。</p>	
<p>【テキスト】資料プリントを配布する。スライド・ビデオ等映像資料を使用する。</p>	
<p>【参考書】牧田茂『柳田国男』(中公新書)・中村哲『柳田国男の思想』(法政大学出版局)・谷川健一『柳田国男の民俗学』(岩波新書)。</p>	
授 業 計 画	
<p><u>講義の概要</u></p>	
<p>1. 生いたち</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本一小さい家」-----松岡家の一つの不幸</li> <li>・利根川畔・布川・徳満寺絵馬の衝撃</li> </ul>	
<p>2. 就学と詩人松岡国男</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊良岬への旅と島崎藤村『椰子の実』</li> </ul>	
<p>3. 民俗学の夜明け</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農政学から民俗学へ——『後狩詞記』と『遠野物語』</li> </ul>	
<p>4. 官界から言論界へ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅と学問-----大正デモクラシーと民衆文化の発掘</li> </ul>	
<p>5. 日本民俗学の確立</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『海上の道』——壮大なる仮説</li> </ul>	
<p>6. 柳田の学問と思想は「近代」を超えることができるか。</p>	
<p>【評価方法】定期試験時の筆記試験による。配布プリント・ノート・参考書等参照可。</p>	

【授業科目】現代英米の文学	【担当者】中島好伸
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】  20世紀以降のイギリス、アメリカの文学作品を分析しながら読み、時には文学の歴史や過去の作品との関係に照らし合わせながらその特徴を引き出し、イギリス、アメリカそれぞれの国民性を理解する。</p>	
<p>【テキスト】  プリント</p>	
<p>【参考書】  授業内で指示する。</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>イギリス文学を6回、アメリカ文学を6回、それぞれ具体的な作品を取り上げて分析的に読み込んでみる。その上で、それぞれの作品が出てくる社会的歴史的背景を考え、大きな英米の歴史、文学史を浮かび上がらせる。以下のような順番で講義していくので、できるだけ多くの作品に触れて欲しい。</p> <p>イギリス第1回 J.K.ローリング『ハリー・ポッターと賢者の石』  イギリス第2回 D.H.ロレンス『チャタレイ夫人の恋人』  イギリス第3回 コンラッド『闇の奥』  イギリス第4回 サマセット・モーム『お菓子とビール』  イギリス第5回 グレアム・グリーン『情事の終わり』  イギリス第6回 カズオ・イシグロ『日の名残り』  アメリカ第1回 ドライサー『シスター・キャリー』  アメリカ第2回 フィッツジェラルド『グレート・ギャッツビー』  アメリカ第3回 ヘミングウェイ『日はまた昇る』  アメリカ第4回 スタインベック『怒りの葡萄』  アメリカ第5回 フォークナー『八月の光』  アメリカ第6回 サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』</p> <p>レポートのため、英米それぞれ最低1冊ずつ読んでおくこと。</p>	
<p>【評価方法】  レポート</p>	

【授業科目】 日本とアジアの近現代史	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>現在の日本とアジアの関係を考えるとき、近代以降の歴史的経緯は背景として重要である。韓国、中国の近隣諸国をはじめ、東南アジアの国々に対して、戦前の日本がどのような接し方をしたのか、そのことと日本の近代化とはどのような関係があるのか。これらについて、歴史事実を明らかにしながら検討するとともに、現在のアジアの中の日本の位置を確定していきたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>とくに定めない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>近代化を開始した日本は、その当初から、琉球、台湾、朝鮮半島、そして中国に対して武力による侵略を行った。まだ国内の体制すら整備されていない段階から外に対して兵を送り出したのはなぜなのだろうか。明治維新直後の征韓論に象徴される対外膨張主義の検討からはじめ、最終的に東南アジア地域を含め、インドにまで占領地を拡げていった日本の行動について、その経過を明らかにする。そして、その過程でそれら国々との間にどのような関係ができ、それがまた、現在の日本とアジアとの関係にどのような影響を及ぼしているのかを検証したい。</p> <p>また、その間多くの人々がアジアとの直接的な関係を持ち、多くの悲劇に見舞われ、あるいは加害者としての立場に立ってしまった。その具体像についても、聞き取りや映像資料を用いてできる限り触れていきたい。</p> <p>おおむね以下のような内容で話を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇明治の始まりと「富国強兵」路線－植民地化の危機意識</li> <li>◇欧米列強の圧力と日本の選択－外へ外へと矛盾の転嫁</li> <li>◇征韓論と台湾出兵－何故、朝鮮半島、台湾への出兵なのか</li> <li>◇福沢諭吉の果たした役割－「脱亜論」の影響力</li> <li>◇「一等国」日本の誕生－アジアへの足場＝韓国併合</li> <li>◇関東大震災の時に何が－アジア人に襲いかかる日本人</li> <li>◇中国大陸への積極政策－日本軍隊が残した爪痕</li> <li>◇大陸を目指す人々－満州移民と大陸の花嫁、そして残留孤児が</li> <li>◇日本に連行されたアジア人－強制連行の記録は訴える</li> <li>◇現在の、そしてこれからのアジアと日本の関係－何を語り継ぐか</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す。授業中に小レポートの提出を求めることがある。</p>	

【授業科目】 国境を越える民俗学	【担当者】 東 喜 望
【開講期】 前期	
【授業目標】 古来、社会の基底を支えてきたのは、名もなき民衆である。かつて、彼らの多くは文字を知らず、その生活に必要な技術や文化を口づけてに肉体を通して伝えてきた。この授業では、古来、民衆が大切に守り伝えてきた生活の基層の文化や民衆の精神のあり様、生活の実態などを対象にして考察を進める。特に今年は、中国や東南アジアの島々、かつての日本の「国境を越えて」生きた人々の生活を重視したい。	
【テキスト】 民俗事例の資料として、『沖縄・奄美の説話と伝承』(おうふう刊)を使用する。	
【参考書】 適宜指示する、映像資料を使用する。	
授 業 計 画	
<p>講義概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「伝承」「民俗」とは何か。</li> <li>2. 西洋民俗学の発生・日本民俗学の発祥と展開</li> <li>3. 自然と人類</li> <li>4. 人類の智慧と技術と生活文化(食・住・衣)</li> <li>5. 国境なき人々の原初の暮らし(非定住の生活)       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 山人——日本の山人(マタギ・サンカなど)、ユーラシア大陸の遊牧民、中国・台湾・東南アジアの狩猟民</li> <li>(2) 海人——日本の海人と家船・中国の蛋民・東南アジアの漂海民</li> </ol> </li> <li>6. 原初の定住生活——焼き畑農耕から稲作農耕へ。</li> <li>7. ムラの形成とその基本構造</li> <li>8. 村落祭祀と民俗行事など。</li> </ol> <p>まとめ——新たな「<sup>カ</sup>結い」は可能か。-----「脱国家」の問題</p>	
【評価方法】 定期試験時の筆記試験。テキスト・配布プリント・ノート等参照可。(追再試験は参照不可)	



【授業科目】 庶民の生活文化	【担当者】 高橋 徹
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>私たちの親の世代や、祖父祖母の世代の人々は、どのような暮らしをして、どのようなものに感動し、どのような感じ方や考え方をしてきたのだろうか。戦後日本人の生活の歴史を理解し、また、みなさんが自分自身の生活についても、考えるきっかけを得ることを目的とします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使いません。資料を配布する予定です。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で紹介していきます。</p>	
授 業 計 画	
<p>生活文化といっても、「衣食住」に限るのではなく、もう少し広く考えていきたいと思っています。例えば、映画や音楽を楽しむことも、私たちの生活の一部でしょう。この、広い意味での生活文化の歴史を理解するために、時代をたどりながら、テーマに沿った、古い映画や関連するドラマの一部分、ドキュメンタリーなどをビデオで見て、それについて議論したり、考えたことを小レポートにまとめたりしながら、授業を進めていく予定です。</p> <p>テーマとしては、次のようなものを予定しています（資料の関係で、変更になることもあります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) イン트로～都市化と大衆文化の誕生</li> <li>(2) 第二次世界大戦</li> <li>(3) 戦後復興、民主主義、映画スター</li> <li>(4) 東京オリンピックと大阪万国博</li> <li>(5) 相撲と野球</li> <li>(6) 旅行と寅さん</li> <li>(7) テレビとアイドルの時代</li> <li>(8) テレビゲーム、マンガ、アニメ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内の小レポート、期末試験をあわせて評価します。</p>	

【授業科目】比較文化論・近代文明と日本人	【担当者】栗田廣美
【開講期】後期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;">ペリーの黒船が来て、日本が「開国」してから、およそ150年。      僕は今、53歳。……もう、ペリー以後の歴史の1/3を生きてしまっている！      「日本の近代」は本当に短い！</p> <p>この150年間、日本人は、欧米の「近代文明」と向き合い苦闘し、その中に呑み込まれてきた。  <u>諸君の生きている「今」も、諸君自身の「人生」も、その文化過程の中に存在している。</u>      「近代文明と日本人」を考えることは、我々が生きている「この、今の日本」を考えることだ。</p> <p>本講では、明治期にアメリカ・ヨーロッパに渡り、「近代文明」との緊張に満ちた出会いを体験した人々を紹介しながら、上記の問題に迫って生きたい。</p>	
【テキスト】教科書は用いない。必要に応じ、プリントを用意する。	
<p>【参考書】 栗田廣美著『亡命・有島武郎のアメリカー（どこでもない所）への旅』（右文書院・刊）。      本学図書館にもあります。近所の公立図書館に、どしどしリクエストしよう！</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>おおむね、以下のような順序で講義する予定だが、諸君の興味・問題意識・理解度によって、途中で変更することもありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「最近150年の日本」をどう見るか。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 日本の歴史の中でも、8世紀前後と同じくらい「奇妙な時代」。</li> <li>② 「巨大な文明」と向きあうこと。                 <ol style="list-style-type: none"> <li>a 憧れと恐怖</li> <li>b 「英語帝国主義」と日本人。</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2 「国家的使命感」の中で出会う「近代文明」——「鹿鳴館世代」の欧米体験。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 内村鑑三・新渡戸稲造とアメリカ</li> <li>② 森鷗外と「ドイツ帝国」</li> </ol> </li> <li>3 「個人」として出会う「近代文明」——夏目漱石と「日露戦争世代」の欧米体験。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 夏目漱石のイギリスと、有島武郎のアメリカ</li> <li>② 日露戦争世代と「古きヨーロッパ」の発見                 <ol style="list-style-type: none"> <li>a 永井荷風と「ふらんす」</li> <li>b 有島武郎と「ゴシック・中世ヨーロッパ」</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4 「岡倉天心」という巨人             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「中国は二つ」——システムとしての文明</li> <li>② 「アジアは一つ」——西欧文明を相対化するシステム</li> <li>③ インドとアメリカ——「日本=現実」からの亡命先</li> </ol> </li> </ol> <p>ノートをしっかり取りながら聞いていれば（予備知識が全く無くても）分かるはずである。大学での講義ノート・メモの取り方には慣れていないと思われるので、最初はメモの要点も指示しながら進める。</p> <p>大切なことは「知識」や「結論」ではない。自分自身の「現在」を、大きな「場」の中に置いて考えることだ。諸君の中に、こうした「自分自身への問題意識」を喚起することを、最大の目標にしたい。</p>	
【評価方法】筆記試験（ノート・プリント等、何でも参照可）。講義に基づいて書く形式。しっかりノートをとっておくこと。出席点を加味して、総合的に評価する。	

●2002年度シラバス変更(2)

<p>【授業科目】 人物研究Ⅲ (有島武郎)</p>	<p>【担当者】 高原二郎</p>
<p>【開講期】 1年後期</p>	
<p>【授業目標】 「時代の中で、誠実に生きようとする」とは、どういうことか。 有島武郎(ありしまたけお、1878-1923)という人物は、「情熱の芸術家」でもあり、「革命的思想家」でもあるが、それ以前に、時代の現実を深く見詰め、「人間」を圧迫するものと闘い続けようとした「一人の人間」だ。</p> <p>資産家・大農場主の家に生まれながら、やがて、小作人に、無償で農場を解放した有島。 自殺未遂の果てにクリスチャンになりながら、やがて「信仰」と訣別した有島。 アメリカ留学中も「近代文明」の歪みを見詰め「新たな人間らしい文明」を求め続けた有島。 ロシア革命を擁護しながら、同時に、革命政権の独裁制を厳しく批判し、闘おうとした有島。 日露戦争に反対し、朝鮮の植民地化に反対し、諸民族の自由と連帯を希求した有島。</p> <p>こうした闘いの中で孤立し、やがて、夫のある女性との激しい恋愛に命を燃やし、二人で共に自殺すること——「心中」に追い込まれていった有島。</p> <p>有島武郎の遺した日記や手紙、彼が生きた当時の札幌やアメリカ、ヨーロッパの資料、作品や評論を紹介しながら、「誠実に時代の歪みと闘い続けた人間」としての有島武郎を語りたい。</p> <p>我々は、有島の「自殺(心中) = 挫折(玉砕)」を、どうしたら乗り越えることが出来るか、いかにしたら、有島の遺志を継いで「人間を圧迫するもの」と闘うことが出来るか、という問題を考えていければ、と願っている。</p>	
<p>【テキスト】 用いない。</p>	
<p>【参考書】 栗田廣美著『亡命・有島武郎のアメリカ』(右文書院) 高原二郎著『人と作品・有島武郎』(清水書院)</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>おおむね、以下のような順序で講義する予定だが、諸君の興味・問題意識・理解度によって、途中で変更することもありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生い立ちと、札幌での青春             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「特権階級の優等生息子」から、いかに「脱出」するか。</li> <li>② 「神」と「人間」——自殺未遂とキリスト教入信</li> <li>③ 「家」と「国家」——反抗と訣別</li> </ol> </li> <li>2 アメリカ・ヨーロッパでの思想形成             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「アメリカ=巨大な近代文明」と「日露戦争」の重圧</li> <li>② キリスト教からの離脱と、個性的な思想の形成</li> <li>③ 中世ヨーロッパと「自由なコンミュニオン」への憧れ</li> </ol> </li> <li>3 日本での闘いと挫折             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 芸術・思想・革命・自由</li> <li>② 農場解放の理想と現実</li> <li>③ 恋愛と死</li> </ol> </li> </ol> <p>ノートをしっかり取りながら聞いていれば、(予備知識が全く無くても)分かるはずである。大切なことは「知識」や「結論」ではない。興味を持つこと、考えること。 有島を通して、諸君の中に「人間」への問題意識を喚起することを、最大の目標にしたい。</p>	
<p>【評価方法】 筆記試験(ノート等、何でも参照可)。講義に基づいて書く形式。 出席点を加味して、総合的に評価する。</p>	

【授業科目】 絵本・絵巻と物語表現	【担当者】 久保木 寿子
【開講期】 前期 金 3	
<p>【授業目標】</p> <p>絵本や絵巻には、絵と物語を同時に鑑賞していくという特徴があります。「見る」ことから生じるイメージと、ことば（語り）が創り出すイメージの〈交響〉が目指される訳です。</p> <p>この授業では、さまざまな絵や絵巻を通じて、「見ること」と「ことば」によるイメージの形成について考え、どのような時に、感動や共感を呼び起こす〈交響〉が成り立つのか考えたいと思います。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリント配布</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業時に指示</p>	
授 業 計 画	
<p>I 次ような物を素材に、絵とことばのさまざまな結合の形・枠組みについて考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 絵巻 源氏物語絵巻・信貴山縁起絵巻などを例に</li> <li>2, 絵解き 「刈萱道心と石童丸」などを例に</li> <li>3, お伽草子 『鉢かづき』『物くさ太郎』などを例に</li> <li>4, 絵本 『スーホの白い馬』『100まんびきのねこ』『はらぺこあおむし』などを例に</li> <li>5, 紙芝居</li> <li>6, アニメーション 高畑・宮崎作品を例に</li> </ol> <p>II 上記 I を通して、次のような問題に注目したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 絵の視座・物語の視座</li> <li>2, 絵の空間表現・物語の空間表現</li> <li>3, 絵の時間表現・物語の時間表現</li> <li>4, 見聞く人の位置と語り手の位置</li> </ol> <p>III 絵とことばの響き合いについて考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 絵によるストーリー性・イメージ喚起の条件について</li> <li>2, ことばによるストーリー性・イメージ喚起の条件について</li> <li>2, 絵・ことばの響き合いについて</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。</p>	

[授業科目名] 造形美術とイマジネーション	[担当者] 八木 絃一郎
[開講期] 2年・後期	
<p>[授業目標]</p> <p>イマジネーション(想像)をめぐる営みに、造形美術がどのような意味と働きをもっているのかを、実際の事例を通して考えながらイマジネーションの理解と造形美術そのものの理解を深めることを目的にする。</p>	
[テキスト・参考書]	
授 業 計 画	
<p>1) 対象認識の方法としてのイマジネーション        子どもの絵や、太古の時代の洞窟壁画など、具体的な造形美術作品を通して、表現者がイマジネーションをはたらかせてどう対象を捉えようとしているかを具体的に考えてみる。</p> <p>2) アイデアや夢や理想を生み出す方法としてのイマジネーション        創造的な活動に欠かせない豊かなイマジネーションを繰り広げる際に目に見える造形物が果たす役割について理解する。創造的思考の方法である。</p> <p>3) 共生的な人間関係をつくる方法としてのイマジネーション        互いの意思を的確に伝達交流には、イマジネーションを働かせる必要はもちろんだが、そのためには見えない、形のない互いの意思をできるだけ見えるようにする方法として造形美術を活用する知恵を考える。造形美術のコミュニケーションツールとしての側面を探る。</p> <p>4) イマジネーションの産物        乗り物・建築などを通してイマジネーションのはたらきを探る。</p> <p>5) 使用する造形素材がイマジネーションの仕方を左右する        粘土・紙・描画材・ブロックや積み木・空き箱などの廃材        描画材の違いによるイマジネーションの仕方への影響</p> <p>6) リアリティについて        進化するデジタル機器を道具にして広がるイマジネーション世界における現実性、本質性といったリアリティの問題について、目に見える造形美術を通して考える。</p>	
<p>[評価方法]</p> <p>平常点</p>	

【授業科目】 社会福祉の考え方	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代社会における「社会福祉」とは何か。日本の社会福祉の特徴と問題点は何か。21世紀の日本型福祉国家はいかに改革されるのか。本講義は、歴史社会学の視点と国際比較の方法によって前述の諸問題を分析する。本講義は①現代日本における社会福祉の成立・発展過程、②日本の社会福祉諸制度の現状と問題点、③日本型福祉国家の特徴とゆくえ、についての理解を深めることを目標とする。本講義の受講によって、学生たちは現代社会における社会福祉の機能及び自分の人生への影響を、複眼的に考察するための基本知識・考え方及び分析能力を身につけることができる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>鍾家新著『日本型福祉国家の形成と「十五年戦争」』ミネルヴァ書房、1998年。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>I 社会福祉に関する基礎概念 ①社会福祉／②社会保障／③社会保険／④公的扶助／⑤福祉国家／⑥社会政策</p> <p>II 社会福祉の成立発展の諸背景 ①産業構造・就業構造の変化／②労働運動・「社会主義」／③現代戦争 ④経済成長・富裕化／⑤少子高齢化・外国人の増加／⑥人権意識・価値意識の変化</p> <p>III 社会福祉の考え方 ①ナショナル・ミニマム論／②選別主義と普遍主義／③ノーマライゼーションの理念 ④「福祉生活の質」の考え／⑤最適福祉ミックス論／⑥分権化と参加</p> <p>IV 社会福祉諸制度の現状と問題点 ①公的年金保険制度の形成過程・現状・課題／②医療保険制度の形成過程・現状・課題／③生活保護制度の現状と問題点／④介護保険の現状・問題点／⑤日本の社会福祉制度政策における外国人の位置づけ</p> <p>V 総括 ①東アジアの福祉国家化と伝統文化との相乗・相剋 ②21世紀における日本型福祉国家のゆくえ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>①出席状況と②筆記試験（テキスト・配布資料・自筆ノート持ち込み可）</p>	

【授業科目】 現代とヒューマニズムⅠ	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>戦争と平和の問題を通じてヒューマニズムについて考える。平和という言葉の定義も含め、平和であるということとはどのような状態を言うのか、また、そうなるためにはどういった取り組みが必要であるかを検討する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>とくに定めない。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>平和の定義と意味を考える上で、まずは、平和的でない状態、平和の対局にあると考えられる戦争の問題を通して検討してみたい。その際、昨年9月11日の同時多発テロ以降の動きを素材に、何故あのような事態が起こったのか、その解決に向けての方法は適切であったのかを検討してみることは重要なてがかりとなるだろう。現代の戦争や地域紛争の発生原因として民族や宗教の問題、あるいは「文明の対立」といった形で説明されることがあるが、果たしてそのようなとらえ方は妥当であろうか。近代における国民国家の成立やナショナリズム形成の問題は、そういったこととどのような関係があるのかといった点からも検討を深める必要がある。また、戦争のない状態＝平和とは言えず、それ以外にも平和的でない状態を生み出す諸要因がある点も見逃してはならないだろう。</p> <p>戦争を回避し、平和を求める取り組みはこれまでも蓄積され、また今現在も続けられている。近代の平和思想の歴史をふりかえりながら、その足跡を辿り、有効性を検証することも試みたい。</p> <p>以下のような柱立てを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇同時多発テロは何故起きたかー歴史的経過を探る意味</li> <li>◇報復戦争の意味するものーテロへの対応は「戦争」か</li> <li>◇現代の戦争、地域紛争とその原因ー民族、宗教、「文明の対立」を検討する</li> <li>◇国民国家形成とナショナリズムーフランス、イギリス、ドイツ、そして後発国日本の場合</li> <li>◇近代の平和思想の歴史ー『永遠平和のために』、パリ不戦条約の系譜</li> <li>◇不戦への挑戦、その可能性はー日本国憲法、コスタリカの挑戦、国連改革、国家を超える</li> <li>◇構造的暴力の問題ー貧困、飢餓、差別、人権侵害を生み出す社会構造</li> <li>◇平和への課題ー人権・福祉そして平和</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す。授業中に適宜小レポートの提出を求めることがある。</p>	

【授業科目】現代とヒューマニズムⅡ（消費社会と欲望）	【担当者】大岡 聡
【開講期】1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>「最新のファッションに身を包むと、とても気分がいい!」「人が持っていないバッグをもっているとんだか鼻が高いなあ」「ちょっと食べ過ぎちゃった、ダイエットしなきゃ」「洋服買い過ぎちゃったので、お昼はマクドの半額バーガーで我慢しよう」……。これらは「豊かな」日本社会に暮らす私たちの日常の一コマ。でも「何だか変だ」と思うことはないですか?。モノに振り回されていませんか?。「豊かな」私たちの一方で、飢えた人もいるのはなぜ?。「地球にやさしい」暮らし方ってなんだろう……。この講義を通じて消費社会といわれる現代の私たちのくらしと社会を、反省的に考察してみましょう。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは用いません。毎回プリントを配ります。</p>	
<p>【参考書】 講義中に紹介しますが、とりあえず、上野千鶴子『私探しゲーム』（筑摩書房）、見田宗介『現代社会の理論』（岩波新書）、エリック・シュローサー『ファーストフードが世界を食い尽くす』（草思社）、島村志津『スローフードな人生』（新潮社）、山本・西沢編『百貨店の文化史』（世界思想社）をお薦めします。</p>	
授 業 計 画	
<p>講義では、まず日本における消費社会の形成過程（消費社会化の歴史）をたどることで、現代の消費社会を相対化する歴史的視点の獲得を目指します。それに続き現代の消費社会の特徴や問題点を考察し、あるべき消費社会とかしこい消費者像を展望します。</p> <p>構成は以下の通り。</p> <p>序 消費社会としての現代</p> <p>第一部 消費社会の形成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) リサイクル社会としての江戸</li> <li>(2) 百貨店の誕生①—小売業の革新</li> <li>(3) 百貨店の誕生②—消費社会の演出者</li> <li>(4) 近代家族と文化生活—消費の主体</li> <li>(5) 美と健康—消費と身体</li> <li>(6) 高度成長と消費社会の確立</li> </ol> <p>第二部 消費社会の現在</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 消費社会と現代経済</li> <li>(2) 記号としての消費</li> <li>(3) 消費志向型人間—消費社会の人間像</li> <li>(4) 消費社会と地球—南北問題と環境問題</li> <li>(5) ファーストフードか、スローフードか</li> <li>(6) かしこい消費者とは?—まとめにかえて</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・レポートにより評価する。</p>	



【授業科目】 現代社会と人権	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>私たちを取り巻く社会の中で、まだまだ取り払われることなく横たわっている多くの問題、すなわち、不平等や差別、自由を束縛する圧力、暴力といったものについて、その原因を突き詰め、解決策を模索しようとする人権の問題に行き当たる。また、社会福祉の考え方や子どもの権利養護といった問題にも人権意識は欠かせない基本的要素である。しかし、人として生きる権利が人間すべてに生まれながらにそなわっているという考え方が成立したのは、実はそんなに古いことではない。そういった人権思想の歴史にも触れながら、現在の人権意識にかかわる問題を取り上げていく。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>とくに定めない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>日本弁護士連合会編『ところで、人権です』岩波ブックレット、など多数あるのでその都度紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>人間として生きる権利を、すべての人が平等に生まれながらにして持っているという考え方がしっかり定着したのはいつかということになると、現在ですら不十分という答えになるかもしれないが、少なくともごく最近であることは確かである。この生存権保障が人権の基本であり、それは国民権の成り立ちと密接な関係を持っている。また、平和の問題と相互保障的な関係にあるとも言える。この生存権の成り立ちを歴史的に突き止めることからはじめ、それがどのようにして現在の基本的人権の考え方に至ったかを明らかにする。その上で、現在の人権問題の不十分な点、平和との問題で解決しなければならない点、あるいは「知る権利」や環境権のような今日的な新しい権利の問題についても触れていく。</p> <p>以下のような柱立てで進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「人を殺しては何故いけないか」－素朴な疑問が人権意識の基本</li> <li>◇「万人対万人の戦争状態」－ホップズ『リヴァイアサン』は主張する</li> <li>◇アメリカ「独立宣言」とフランス革命「人権宣言」－人権思想の源流</li> <li>◇人権としての団結権－「自由人の自由な連合」の主張</li> <li>◇社会保険から社会保障へ－「すべての者に人間たるに値する生活を」</li> <li>◇民族自決の原則－植民地の人権宣言</li> <li>◇女性解放運動と女性の人権－ウルストンクラフトの『エミール』批判</li> <li>◇「子どもの権利条約」への道－まずは子どもを育てる母親の権利から</li> <li>◇平和的生存権の明文－日本国憲法の先駆性</li> <li>◇人権の国際化－世界人権宣言から国際人権規約へ</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す。授業中に小レポートの提出を求めることがある。</p>	

【授業科目】 現代社会と教育

【担当者】 民 奴 言

【開講期】 前期

【授業目標】  
現代社会は、多様な相をみせ、大きく変化してきている。その  
なかで私たちは生活するの、充実した毎日を送るためには「教育」は欠か  
せない。本講では幼児教育(保育)に限定し、社会との切りわりを考えていく。

【テキスト】  
平成14年版のハコブック 教育・保育・福祉 関係法令集 北大路書房

【参考書】  
講義の中で、必要に応じて指示する

授 業 計 画

1. 人間にとって「教育」はどのような意味をもつか
2. 乳幼児期の「教育」としての保育の意味
3. 現代社会の特徴 (1) 家族生活
4. 同 上 (2) 地域生活
5. 現代社会における保育の意味 (1) 幼稚園
6. 同 上 (2) 保育所
7. 同 上 (3) 学童保育所
8. 現代社会における「教育」 (1) 福祉と教育
9. 同 上 (2) 国際化と教育

【評価方法】

ペーパーテストと出席点による

【授業科目】現代世界とマイノリティ	【担当者】中島好伸
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】  アメリカにおいてマイノリティと言われる民族の現状や現在にいたる歴史的背景を理解し、それが文学作品でどう描かれているのかを見してみる。</p>	
<p>【テキスト】  プリント</p>	
<p>【参考書】  必要に応じて紹介する。</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>アメリカには、マイノリティと呼ばれる少数民族が多数存在する。黒人すなわちアフリカ系アメリカ人、インディアンすなわちネイティブ・アメリカン、さらにはユダヤ系、中国系アメリカ人、そして日系。あるものは自らの土地を奪われ、そしてあるものは独自の文化を禁止された。またあるものは自主的にではあってもアメリカに渡ってきたために、同化政策ゆえに他者の言語を強制された。このような過去を持つマイノリティたちは、現代においてさまざまな問題を内に外に抱えていると言わざるを得ない。このような現代のマイノリティの状況や問題を以下のような順番で一つ一つ取り上げていく。そして、彼らマイノリティの描いた文学作品を見て、彼らの心にまで迫ってみよう。</p> <p>もちろんマイノリティの問題はアメリカに限ったことではない。民族紛争が多発していることからわかるように、マイノリティの問題は世界の問題である。そこで、アメリカからスタートして、世界のマイノリティまで視野を広げてみたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 アフリカ系アメリカ人の歴史</li> <li>2 1930年代から50年代の黒人小説</li> <li>3 公民権運動内の性差別</li> <li>4 19世紀のネイティブ・アメリカン史</li> <li>5 インディアンの自然観</li> <li>6 ユダヤ人の歴史とアウシュビッツ</li> <li>7 アメリカのユダヤ人</li> <li>8 中国系アメリカ人</li> <li>9 日系アメリカ人</li> <li>10 世界のマイノリティ</li> </ol>	
<p>【評価方法】  レポート</p>	

【授業科目】 現代の文化と風俗	【担当者】 先川 直子
【開講期】 前期	
【授業目標】 わが国の文化や風俗には若者たちがその中心的な役割を担ったものが少なくない。特に、昭和30年代の高度成長期以降は、生活が豊かになるとともに、消費とマスメディアに結びついた若者文化が誕生し、若者たちが風俗やファッションをつくりだしていくようになった。本講義ではその中でも特に若い女性たちが主導権を持って関わったものに焦点を当てて、時代を追いながらいき、現在直面している問題点についても考える。	
【テキスト】 使用しない。必要に応じて資料を配布する。	
【参考書】 小池三枝・柴田美恵『日本生活文化史－近現代の移り変り－』（光生館）他 その他のものについては、テーマに応じて、必要な都度紹介する。	
授 業 計 画	
<p>時代順に次のようなテーマを設定し、各テーマについて順次講義を行なう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハイカラさん－洋風の導入と和風との折衷－</li> <li>2. モダンガール</li> <li>3. あこがれのアメリカ文化－自由で豊かな生活の象徴－</li> <li>4. 昭和30年代の生活文化革新       <ul style="list-style-type: none"> <li>団地の誕生と核家族の増加</li> <li>家庭裁縫から既製服へ</li> <li>3種の神器と3C－家電製品の普及－</li> <li>インスタント食品の登場</li> </ul> </li> <li>5. 女性の高学歴化と女子学生亡国論</li> <li>6. 「若者」がつくる新しい文化       <ul style="list-style-type: none"> <li>ミニスカート－街角から生まれた若者のファッション－</li> <li>ジーンズ－労働着から反抗・反体制のシンボルへ－</li> <li>新人類文化とDCファッション</li> <li>ディスコ文化とボディコン・ギャル</li> <li>コギャル文化と携帯電話の普及</li> </ul> </li> <li>7. 大量生産・大量消費への反省－「もの」とどう向き合うか－</li> <li>8. 高度情報化社会のもたらしたものと問題点</li> </ol>	
【評価方法】 学期末のレポート・授業時の課題レポート類・出席状況・授業態度などによる総合評価	

【授業科目】総合科目・人間「言語活動と人間」	【担当者】東 喜望
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>1. 「総合科目人間」全体について—前期, 3人の教員が分担して担当する。  「言語活動と人間」が考察の大目標である。  東 → 中島 → 佐々の順で講義する。1教員4回。全体で12〜13回。</p> <p>2. 東担当分について—テーマ「人間とことば」</p> <p style="text-align: right;">*出席を重視する。</p>	
【テキスト】(東担当)用いない。適宜プリントを配布する。	
【参考書】(東担当)必要に応じ、授業中に紹介する。	
授 業 計 画	
<p>(東担当分)「人間は万物の霊長」であるといわれています。人間が他の動物と違って最も優れているところは、やはり、ことば(言語)を使うことでしょう。わたしたち人間はことばがなければ生活することができません。では、なぜ人間はことばをつくり出すことができたのでしょうか。そして、ことばは人間にとって、基本的にどんな役割を果たすのでしょうか。人間生活にとって「言語」は、欠かすことのできない「動具」ですが、逆にそれが人間を疎外しているという事実はないでしょうか。</p> <p>この授業では、これらの問いを軸にして、人間の音声言語による活動(聞く・話す)の側面から考察をすすめていきます。多くの事例を資料にして、わかりやすく講義していきます。講義は、おおよ次の順ですすめる予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1). 人類—ことばの創造</li> <li>2). ことばの役割</li> <li>3). ことばと社会</li> <li>4). ことばの功罪</li> <li>5). 「場」の民主性と言語表現</li> </ol>	
<p>【評価方法】前期を通して(3人の教員が各々の担当部分の評価を持ち寄り)全体として評価を出す。</p> <p>(東担当部分) → 授業の最後に、60分のペーパーテストを実施する。ノート・プリント等参照可。</p>	

【授業科目】総合科目・人間「言語活動と人間」	【担当者】中島好伸
【開講期】 前期	
<b>【授業目標】</b> 1 東→中島→佐々の順で講義する。 2 中島担当分について テーマ「経験（自己存在）と言語」	
<b>【テキスト】</b> プリントを使用	
<b>【参考書】</b> 授業時に紹介	
授 業 計 画	
<p>私たち人間は、他の人に自分のことを伝えたくて仕方がない。それは、自分がこの世界にいることを相手に理解して欲しいからであり、また逆に自分が本当にこの世界に存在していることを相手が反応してくれることによって確認できるからである。</p> <p>しかし、この伝達の問題には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 伝わる/伝わらない</li> <li>2) メッセージの真/偽</li> </ol> <p>という大きな問題が絡んでいる。</p> <p>例えば、性の違い、世代の違い、言語の違いによって話は伝わらないこともある。さらに意識しておかなければいけないのは、強い性、強い世代、強い言語によって弱者に沈黙を強いることもあるということだ（1回目）。この沈黙は、意識的なものである場合と、強いトラウマなどによる無意識的なものである場合とがある（2回目）。時には、自分の経験の触れたくない部分には触れないように、意識的に嘘をついたり、またこの嘘が無意識に行われると狂気に陥ることすらあるかもしれない（3回目）。人間の発話、メッセージにはこんなにもいろいろなヴァリエーションがある。が、この発話、メッセージこそが人間を理解する鍵である。そして人そのものと言えるだろう。そこで最後に、言葉を磨くことは自己を磨くことであるとまとめたい。言うまでもなく言語表現の達人は作家。そこで、作家はなぜ書くのかを考えて、自分と比較してみよう（4回目）。以上の内容を具体的に進めるため、次に挙げる文学作品を紹介しながら講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1回目 エイミー・タン『ジョイ・ラック・クラブ』</li> <li>2回目 トニ・モリソン『ピラヴド』</li> <li>3回目 ウィリアム・スタイロン『ソフィーの選択』</li> <li>4回目 まとめ（サマセット・モーム『月と六ペンス』を題材に）</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 前期を通して（三人の教員が各々の担当部分の評価を持ち寄り）全体として評価を出す。 中島担当部分→レポート	

【授業科目】 総合科目・人間「言語活動と人間」	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>日々言語を駆使しながら生活をしている一人の人間である自分から始め、生活のなかで生きていく言語を扱う。さまざまな場面での言語活動の実態から検討し、各人が言語を生かしていく方向を探れるようにする。</p>	
【テキスト】 用いない。適宜プリントを配布する。	
<p>-----</p> <p>【参考書】 筆者の著書でいずれも犀書房。言語習得と人間関係、コミュニケーション能力弱者の QOL 援助、子どもからの贈りもの、発達臨床相談。</p>	
授 業 計 画	
<p>演習をふまえながら構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ことばの正体を探る 日常のなかでのことばの実態。話しことばから書きことば。世代によることば;位相語。 人間の生活におけることばとそれを生み出す人間</li> <li>2. 見えないことばを読む 広げてみることばの世界。 ことばの意味を読みとる、その鍵になる内容</li> <li>3. ことばを育てる 乳幼児、障害児・者、失語症、重症心身障害児など筆者の経験・体験から、その筋道を考える</li> <li>4. ことばを育む それぞれのプログラム</li> </ol>	
<p>【評価方法】 平常点を重視する。 授業内で行うミニレポートとレポートによる評価</p>	

【授業科目】 ヒューマニズム論	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;">「ヒューマニズムは間違っている！」と言う人は多くはないが、 では、なぜ「ヒューマニズム」は「正しい」のか。</p> <p>「人間を大切にするのはアタリマエだ」では、「自分の思想」にも「学問」にもならない。そういう発想は、「世間的通念」に流されているだけなのではないか。「人間中心主義」こそが地球を危機に陥れた、とさえ言われている現在、「ヒューマニズム」は、本当に我々の「支え」になりうるのか。つまり、「現代に於けるヒューマニズム」は、可能なのか。</p> <p>「ヒューマニズムの精神」は、白梅学園「建学の理念」ともされているが、その「理念」自体も、自由な学問的立場で検証されねばならない。</p> <p>本講では、上記のような問題意識のもと、「近代以後の人間のあり方」を考えることを出発点として、現在、<u>何によって人間が圧迫されているか</u>、<u>何に抗って「人間を大切にする」のか</u>、というアクティブな問題に迫っていきたいと思っている。大学生になった諸君が、知的に、根源的に「自分自身と世界」を考えるための、一つのキッカケになれば、と願っている。</p>	
【テキスト】 用いない。必要に応じてプリントを配布する。	
【参考書】 必要に応じ、講義中に紹介する。	
授 業 計 画	
<p>おおむね、以下のような順序で講義する予定だが、諸君の興味・問題意識・理解度によって、途中で変更することもありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「根源的（ラディカル）に考える」態度について       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「根源的に問う」こと</li> <li>② 「自己」と「世界」</li> <li>③ 何が「人間」を価値づけるか——「神のある世界」と「神の無い世界」</li> </ol> </li> <li>2 我々の状況——近代に於ける「人間」の問題       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「近代ヒューマニズム」思想と、その問題点</li> <li>② アイデンティティーと共同体</li> </ol> </li> <li>3 現代の状況と人間       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「国家」と人間</li> <li>② 「資本」と人間</li> </ol> </li> </ol> <p>ノートをしっかり取りながら聞いていれば、（予備知識が全く無くても）分かるはずである。大学での講義ノート・メモの取り方には慣れていないと思われるので、最初はメモの要点も指示しながら進める。大切なことは「知識」や「結論」ではない。疑問を持つこと、考えること。諸君の中に「問題意識」を喚起することを最大の目標にしたい。</p>	
【評価方法】 学期末に、ノート（そのほか何でも）持ち込み可の、記述式テストを行う。それと、出席点を加味して評価する。ノートをしっかり取っていることが大切だ。	



【授業科目】 地域の生活と家族 【担当者】 民秋 言

【開講期】 後期

【授業目標】  
私たちが人間は、たいてい、家族という集団に所属し、その一員として生活する。つまり、そのなりに生まれ、育ち、生活し、老年を送る。この家族は地域のなかにある。地域のあり方と大きく関わっている。

【テキスト】 講義の中で必要に応じて指示する

【参考書】 同 上

授 業 計 画

1. 人間にとって家族とは何か
2. 家族のはたらき(機能)
3. 家族のなかの人間関係 (1) 夫婦関係
4. 同 上 (2) 親子関係
5. 同 上 (3) 近しい関係
6. 日本の家族の特徴 (1) 「イエ」の制度
7. 同 上 (2) 核家族と直系家族
8. 地域社会の変化・都市化
9. 地域のなかに生活・コミュニティ
10. 地域生活と家族のあり方

【評価方法】  
レポートと出席点による

【授業科目】 憲法と私たち（日本国憲法）	【担当者】 松田 浩
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、日本国憲法の仕組みと働きの大枠を理解することを目標にします。みなさんがこれから市民として、職業人として生活していくうえで、最低限必要な憲法や法についての基本的な考え方を、この授業を通じて身につけて下さい。</p>	
<p>【テキスト】 無</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 さしあたり、芦部信喜『憲法』（岩波書店）。「面白い本」ではありませんが、日本国憲法についてのスタンダードな知識を得たい方は手にするといいでしょう。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、日本国憲法とは何か</li> <li>2、日本国憲法の基本原則</li> <li>3、国民主権・天皇制</li> <li>4、平和主義</li> <li>5、基本的人権総論</li> <li>6、精神的自由権</li> <li>7、経済的自由権</li> <li>8、人身の自由・国務請求権・参政権</li> <li>9、社会権</li> <li>10、統治機構総論・国会</li> <li>11、内閣・財政・地方自治</li> <li>12、裁判所・違憲審査制</li> <li>13、憲法改正</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席）と期末試験で評価</p>	

【授業科目】 心理学入門Ⅰ（心のしくみ）	【担当者】 専任教員
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>心理学という学問の歩みや基本的な考え方を学びます。また、これから勉強していく心理学の各分野を概観します。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>----- 個々の授業の中で紹介します。 -----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 心理学の歴史と基本的立場-----金子</p> <p>2. 知覚心理学-----金子</p> <p>3. 実験心理学-----多喜乃</p> <p>4. 学習心理学-----荻野</p> <p>5. 発達心理学(青年心理学)-----林</p> <p>6. 人格心理学-----金</p> <p>7. 臨床心理学-----林</p> <p>8. 健康心理学-----金</p> <p>9. 生理心理学-----多喜乃</p> <p>10. 社会心理学-----倉澤</p> <p>11. 心理学の研究法-----荻野</p> <p>12. 心理学と社会-----倉澤</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出欠席と期末試験(マークシートによる客観テストを予定)により評価します。</p>	

【授業科目】 心理学入門Ⅱ（性格と人間関係）	【担当者】 林 潔
【開講期】 前期	
【授業目標】 性格について、今日の心理学の見方を紹介します。	
【テキスト】 なし	
----- 【参考書】 随時紹介します。	
授 業 計 画	
<p>いろいろなタイプの人がありますね。 同じ事についても受け取り方は、人によってさまざまです。 どうしてなのでしょうか。 なぜ人は、その人なりのやり方で行動するようになるのでしょうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動についての心理学の見方       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 経験を重視する</li> <li>(2) ものの見方を重視する</li> <li>(3) 過去の経験、特に幼児期の経験を重視する</li> </ol> </li> <li>2. 「血液型と性格」は？</li> <li>3. 今日の性格についての考え方</li> <li>4. 人間関係について考える</li> </ol> <p>質問歓迎です。Mailも使ってください。 hayashi@shiraume.ac.jp</p>	
【評価方法】 平常点、指定図書レポート、中間試験、期末レポートで評価します。	

【授業科目】 言語とコミュニケーション	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>日常生活はさまざまな人間関係のなかでのコミュニケーションの場面がある。その方法もさまざまにある。言語はその代表格である。コミュニケーションが円滑にすすんでいくということについての基礎理論から始め、コミュニケーション関係における阻害要因と促進要因を抽出することで、生活において言語を媒介としたコミュニケーション関係のすすめかたについての方策が見出せるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐々加代子、コミュニケーション能力弱者の QOL 援助、犀書房</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>筆者の著書でいずれも犀書房。言語習得と人間関係、子どもからの贈りもの、発達臨床相談</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語の特性</li> <li>2. コミュニケーションにおける言語</li> <li>3. コミュニケーションの基本的過程 <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばのキャッチボール、ことばとキャッチボール</li> <li>媒介となる距離—信号行動系</li> </ul> </li> <li>4. コミュニケーションの対象児・者の特性のとらえかた</li> <li>5. 対象児・者別によるコミュニケーション関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>乳児、幼児、障害児、障害者、失語症、介護を要する人、痴呆性老人、重病患者、異文化の人</li> </ul> </li> <li>6. コミュニケーションにおける共通項としてあげられる内容</li> <li>7. 両者の関係と QOL</li> <li>8. コミュニケーション関係、人間関係において機能していく言語の内容を育むこと <ul style="list-style-type: none"> <li>ここでの 1-8 の数字は講義の内容を区分したもので、回数を示してはいない。</li> <li>情報機器類も用いながら、できるだけ具体的場面を想定できるように工夫をこらしていく。</li> <li>グループでの討論も加えていく。</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】 平常点を重視する。</p> <p>最終的には、平常点、授業内でのミニレポート、レポートで評価する。</p>	

【授業科目】男と女・ジェンダーを考える	【担当者】富永静枝
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>ジェンダー概念を理解し、これまでの社会制度や性別役割意識の問題点をジェンダー視点から捕らえ直し、男女共同参画社会に向けての新しい社会システムのあり方や男女の関係性をさぐり、「男らしさ」・「女らしさ」の呪縛から開放される態度を養成する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない。必要に応じて授業時に資料プリントを配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業時に随時紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>今日、家族や女性を取り巻く社会的状況は大きく変化した。男女共同参画社会が志向され、男女雇用機会均等法の改正や介護・育児休業法の実施など平等に向けての法的整備は進んだが、実生活の上では多くの問題を残している。不況下での女子学生の就職は厳しく、結婚後も家事・育児と職業の両立に悩むなど、女性が能力を発揮して、一人の人間として自立して主体的に生きることは困難な状況にあり、男性もまた厳しい労働環境の中で豊かな家族関係を築くことは難しい状況にある。そこでこの授業では人生のパートナーである男性と女性が、ともに人間らしく豊かに生きるためにはどうしたら良いか、これからの望ましい男女のあり方や、社会システムのあり方について学ぶ。授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加えて行います。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、 ジェンダーとはー性別役割分業とその問題点ー</li> <li>2、 女性のライフサイクルの変化</li> <li>3、 ジェンダー統計に見る現状と課題</li> <li>4、 労働とジェンダー</li> <li>5、 福祉とジェンダー</li> <li>6、 女性と人権ードメスティックバイオレンスー</li> <li>7、 男女平等をめざす世界の運動と日本の動き</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験(ノート、授業中の配布資料など参照可)、平常時の提出物、出席状況の総合評価。</p>	

【授業科目】女性労働の問題	【担当者】富永静枝
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>これからの社会は男女が互いに支え合いながら、ともに職業生活と家庭生活を両立させ、ともに自立して生きることが求められる。受講生たちが伝統的な性別役割分業意識から解放され、職業生活と家庭生活の両立をめざす努力をすることを期待したい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない。必要に応じて授業時に資料(プリント)を配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業時に随時紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>男女雇用機会均等法の改正や育児・介護休業法の施行などにより、近年女性の労働環境は大きく変化した。女性が自立して生きるためには経済的自立は不可欠である。しかしまだまだ出産・育児や介護のために退職を余儀なくされる女性は多く、仕事と家庭の両立は困難な状況にある。本講では、働く女性たちが抱える問題点を明らかにし、問題解決への方向性を探る。(教養科2年「女性労働論」と同時開講)</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、 近代日本における女性労働の歩み</li> <li>2、 女性労働の現状と課題</li> <li>3、 女性労働と法</li> <li>4、 女性労働の国際比較</li> <li>5、 家事・育児・介護と女性労働</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末のレポート、平常時の提出物、出席状況の総合評価</p>	

【授業科目】総合科目 生命	【担当者】柳下登・近藤正樹・明渡陽子
【開講期】後期	
<p>【授業目標】半年間に3人の教員が担当するオムニバス形式の総合科目である。</p> <p>20世紀後半に発展した分子生物学は、従来の生物学・農学・医学を包括した形で生命現象を分子レベルで理解する生命科学を成立させた。この生命科学に、物理・化学的アプローチが加わることで、21世紀に入り、「生命」の概念が大きく変貌しつつある。30数億年前に生まれた生命、その由来から高度科学技術文明が作り出した生命操作に至るまで、地球上に生存してきた「生命」に対する理解を通して、地球に生きる多様な生命の中の一つにすぎない人類の位置づけを考察する。さらに農学・生物学・医学を background にもつ3人がそれぞれの視点で、21世紀の生命科学の課題を学生諸君と共に考えたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>柳下登：プリントを使用  近藤正樹：プリントを使用  明渡陽子：プリントを使用</p> <p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>柳下登：どこまで描ける生物進化 宇佐美正一郎（新日本出版社）生命の塵 植田充美訳（翔泳社）自然の恩恵をひきだすために 柳下登（たたら書房）遺伝子組み換え作物に未来はあるか 柳下登（本の泉社）</p> <p>近藤正樹：生産の生物学（開成出版）</p> <p>明渡陽子：生命とは何か（岩波新書）</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のスケジュールに沿って行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命とはなにか：明渡陽子</li> <li>2. 生命の由来（物質の由来・太陽系・地球・生命体）：柳下登</li> <li>3. 地球生物と進化：柳下登</li> <li>4. 地球生物と環境：近藤正樹</li> <li>5. 地球生物と種の保存（自己保存・自己増殖・自動制御）：近藤正樹</li> <li>6. 生命科学の誕生と生命：明渡陽子</li> <li>7. 21世紀の課題：生命はどこへゆくのか（それぞれの専門分野から）  柳下登  近藤正樹  明渡陽子</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>柳下登：出席状況と筆記テスト  近藤正樹：出席状況と筆記テスト  明渡陽子：出席状況と筆記テスト</p>	



<b>【授業科目】</b> 現代とヒューマニズム III (科学技術と生命)	<b>【担当者】</b> 柳下登・明渡陽子
<b>【開講期】</b> 前期	
<b>【授業目標】</b> 高度科学技術文明といわれる現代文明の基盤となっている科学技術は、人間の自然を理解する「科学」という営みから生まれ、その成果を日常の経験世界から広大な宇宙・微細な物質の世界にまで応用しつつ進歩をとげ、それらから人類は多くの恩恵を受けた。しかし同時に、それは地球規模でより多大な問題を引き起こしてきた。この授業では、物理学、生物学、医学などの近代科学と技術が相互に影響し合いながら創り上げた科学技術の過程を知ること、現代文明の一つの横顔の理解を計る。さらに、クローン人間という言葉に代表されるように、人間生命が科学技術の対象となる「生命の技術化」を可能にした現代文明の問題点を探る。	
<b>【テキスト】</b> 柳下登 : プリントを使用 明渡陽子 : プリントを使用	
<b>【参考書】</b> 柳下登 : 新編自然科学入門 甲斐義幸 (学術図書) 科学の考え方・学び方 池内了 (岩波書店) 世界のため E. ニュート (NHK 出版) 未来のため 左に同じ 遺伝子組み換えに未来はあるか 柳下登ら (本の泉社) 明渡陽子 : 上記の参考書類の中のどれか。	
授 業 計 画	
以下のテーマに沿って行う予定。  1. 私達が生きている高度科学技術文明とはいかなる文明か 2. 科学技術はどのように生まれたか (発想・思考の原点) 3. 道具や方法はどのように科学技術の発展に寄与したか (発想・思考の作用ベクトル方向) 4. 近代科学 (天文学・力学などの物理学・数学・生物学・医学など) と科学技術の発展との相互作用 5. 近代科学の発展と先端技術—その光と影— 6. 人間生命と科学技術のゆくえ	
<b>【評価方法】</b> 柳下登 : 出席状況と筆記テスト 明渡陽子 : 出席状況と筆記テスト	

【授業科目】 体の不思議	【担当者】 村田 務
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1) 人間の身体と生命活動に対する知的探求心を喚起し、身体の特徴的なしくみと働き、外界との繋がりに関する基礎知識について理解させる。</p> <p>2) 自らの体の不思議さと巧みさを知ることによって、「生命活動の主体」として自身を認識する基盤を形成させる。</p>	
<p>【テキスト】 使用せず</p>	
<p>【参考書】</p> <p>菊池俊英：人間の生物学、理工学社、1976年。  香原姿勢：人類生物学入門、中公新書、1975年。  佐藤方彦：人間と気候、中公新書、1987年。  藤田紘一郎：共生の意味論、講談社ブルーバックス、1997年。  宮城重二：女性はなぜ長生きか、講談社ブルーバックス、1996年。ほか</p>	
授 業 計 画	
<p>今日、いじめや児童虐待、自殺、薬物使用、買春、売春など、他人や自分自身の生命及び健康、人権に関わる諸問題が社会的問題としてクローズアップされてきている。これら背景には様々な事柄が考えられている。その1つとして「自他の体に対する尊厳の念が希薄で、自他の体や命を大切にするという意識が薄れているのではないか」という指摘もされている。</p> <p>教科目「体の不思議」では、人間の体の仕組みと働きの理解を通して、「ヒトの体の不思議さ」や「人間のからだのすばらしさ」に触れる。そして、人間の、自分自身や他人の生命や健康、人権の大切さについて考える契機とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 温度に対する恒常性 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ゾウはなぜ水浴びをするか</li> <li>2) ヒトはなぜ汗をかくか</li> <li>3) ヒトはなぜ鳥肌が立つか</li> </ol> </li> <li>2 気候と人類の適応 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) らくだはなぜ砂漠に強いのか</li> <li>2) ヒトの体温はなぜ37℃か</li> <li>3) ヒトはなぜ人種によって体型が違うか</li> </ol> </li> <li>3 外敵から体を守るしくみ <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ヒトはなぜばい菌の中で生きていけるか</li> <li>2) 寄生虫が減ってアレルギーが増えたのはなぜか</li> <li>3) 心配事があるとなぜ胃が痛むのか</li> </ol> </li> <li>4 男女の不思議 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 女性はなぜ長生きか</li> <li>2) なぜ男と女がいるの</li> <li>3) ヒトはなぜ異性を求めるか</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（2回のペーパーテスト。学習意欲と出席を重視する。）</p>	

【授業科目】 生と死を考える	【担当者】 嶋根 久子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】人は死に直面した時、生きているという実感を一層強くもつと言われている。しかしながら、核家族化が進行するなかで、寿命の飛躍的に伸び、加えて病院で死を迎える昨今、我々は死を体験する機会が非常に減少しているといわれる。従って、この講義では、人の持つ「死体験」という能力をフルに活用して、充実した生を目指して、様々な角度から死について考えてみたいと思います。</p>	
【テキスト】	
<p>【参考書】死の社会学(副田義也編)岩波書店、生と死を考へ(A.ドゥーケン他)春秋社      死の瞬間(フェアラース)読者新聞者、現代、死にふれて生かす。(R.T.リフトン)有信堂、      死とは何か(ウヰンブル、ジャンレウツ)青弓社</p>	
授 業 計 画	
<p>1) 死の諸相。      a. 病死、b. 事故死、c. 災害に於ける死、d. 自死 e. 自然死</p> <p>2) 家族と看護、あるいは死の看取り      a. 死の諸相=お家族への影響、b. 子供の死 c. 親の死、      d. 高齢者の死、e. 配偶者の死</p> <p>3) 死者の年齢別にみた、残される家族の問題      a. 配偶者の死、b. 子供の死、c. 親の死、</p> <p>4) 死の受容の諸形態      a. 死にゆく人 b. 残された家族</p> <p>以上のテーマについて、より一層の理解を深めることを目的として、視聴覚教材を援用しながら、講義を進める。</p>	
<p>【評価方法】      主にレポート</p>	

【授業科目】	人間の生と性	【担当者】	浅井 春夫
【開講期】	後期		
【授業目標】	性を明るく、おおらかに、そして科学的に語れる基礎的な力をつけてもらいたいと願っている。具体的には、①人間の性に関するミニマム・エッセンスを学ぶことを通して、性的自立と性的共生能力をはぐくんでいくことを大切にする。私たちが自分らしく、そしてお互いを大切に生きる上でどのような性行動を選択するかが問われているからである。②セクシュアル・マイノリティの人権の現実を学ぶ。性に関する偏見をなくしていくことは共生の重要な条件であるからである。③タイムリーな性に関する問題を討論できる場を設けたい。この時代に生きる一人ひとりの生と性を見つめ直す機会としたいからである。人間の生と性の科学的な理解と性をめぐる人間関係を真摯に学んでほしい。		
【テキスト】	浅井春夫『セクシュアル・ライツ入門』（十月舎、２０００年、２５００円）		
【参考書】	浅井春夫・伊藤悟・村瀬幸浩共編『日本の男はどこから来て、どこへ行くのか』（十月舎、２００１年、２５００円） 浅井春夫『子ども虐待の福祉学』（小学館、２００２年、１８００円）		
授 業 計 画			
<p>テキストをもとに以下のような計画をたてているが、タイムリーな問題を取りあげて講義することもある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 本授業での問題意識と授業の運営についての共通確認</li> <li>② セクシュアリティに関する基本的な用語の説明</li> <li>③ マイノリティ（ゲイ、トランス・ジェンダー、インターセックス e t c）のセクシュアル・ライツ—いまも平然と行われる差別と偏見、それは性と政をめぐる問題</li> <li>④ 子どものセクシュアル・ライツの現状—わが国と世界の現実から—</li> <li>⑤ 子どもの性的発達の特徴と性をはぐくむ課題—とくに男性形成の問題を考える</li> <li>⑥ 性暴力の力学—ドメスティック・バイオレンスにみる女と男の関係学</li> <li>⑦ 恋愛のススメ—恋愛の発展プロセスを考える</li> <li>⑧ 性器の生理学—男と女の性器はもとは同じだった！性器の構造を学ぶ。</li> <li>⑨ 性交の人間学—性交は人間にとって、二人の関係にとってどのような意味をもっているのか。二人の関係性を反映した性交の現実を考える。</li> <li>⑩ 生殖医療の最前線（体外授精、代理母など）をめぐる討論—あなたは賛成？反対？</li> <li>⑪ エイズの政治学—その南北問題としての側面</li> <li>⑫ セクシュアリティの過去・現在・未来—性の主体者として生きるために</li> </ol>			
<p><b>キーワード</b></p> <p>セクシュアル・ライツ（性的人権）、性における平和と平等、性の多様性、セクシュアル・オリエンテーション（性的指向）、同性愛、トランス・ジェンダー、グラデーション</p>			
【評価方法】	定期試験		

<b>【授業科目】</b> 生物の世界と人間	<b>【担当者】</b> 吉川 研二
<b>【開講期】</b> 前期	
<b>【授業目標】</b> 生物の命を育むのは地球の大気、水、土壌環境であり、その環境は生物の働きによって維持されている。地球上には多様な生物が生活している。この生物多様性の世界は長い時間をかけてつくられてきたものであり、多くの生物が様々な関係を持って共存している。ヒトも他の生物が存在することによって生きていけるのであって、生物のひとつひとつの命はかけがえのないものである。今、人間の活動が地球環境システムに急激な変化をおよぼしている。生物多様性にも危機が迫っている。私たちにできることはなんだろうか。生物の世界を知ることは自分の生き方を考え直すことにつながっている。	
<b>【テキスト】</b> プリント等による。	
<b>【参考書】</b> 書籍、ビデオなど、授業中に適宜紹介する。	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境と生物              環境とは 生物と環境との相互作用 環境の変遷</li> <li>・生物多様性              種とは 多様性 種の進化 生物の分布</li> <li>・植物の世界 動物の世界              生産と消費 食べること 増えること 循環すること</li> <li>・種間関係              植物と植物との関係 植物と動物との関係 動物と動物との関係              捕食 共生 寄生 共進化</li> <li>・種内関係              オスとメス 親と子</li> <li>・生物群集              食物網 ニッチ</li> <li>・人間と生物              生態系 熱帯林の破壊 大気汚染 水汚染 土壌汚染</li> </ul>	
<b>【評価方法】</b> 平常点＋筆記試験	

【授業科目】 人間と環境	【担当者】 吉川 研二
【開講期】 後期	
【授業目標】 海洋生物学者の Rachel L. Carson は、その著『Silent spring』の中で合成殺虫剤が生物の世界にもたらす危険性について警告した。その警告によって人類はどれだけ賢くなったのだろうか。以来30年以上経ったが人工化学物質による環境汚染は地球規模で深刻さを増している。熱帯雨林など地球上の各所では多くの生物が絶滅の危機に直面している。環境の激変と種の消滅は、生態系の単純化につながりヒトの生存を危うくする。環境問題は地球レベルのものから、私たちひとりひとりの生活レベルのものまで深く考えることが必要である。	
【テキスト】 プリントなど	
----- 【参考書】 授業中に適宜紹介する	
授 業 計 画	
1. 環境とは 2. 生態系の構造と機能 2.1 生態系の構造 非生物的要素と生物群集 2.2 物質の循環とエネルギーの流れ 3. 地球環境汚染と生態系 3.1 環境ホルモン 食物連鎖 生物濃縮 3.2 森林の破壊 熱帯雨林 生物多様性 3.3 地球温暖化 温室効果ガス 温暖化の影響 3.4 水の汚染 酸性雨 陸水汚染 海洋汚染 3.5 オゾンホール フロン 紫外線と生物 4. 生活の中の環境問題 4.1 資源量、消費量、廃棄物量 4.2 リサイクル 自然生態系と人工生態系 4.3 二つのエコ 4.4 環境倫理	

【授業科目】生活と健康	【担当者】明渡陽子
【開講期】後期	
<p>【授業目標】</p> <p>健康の概念理解と健康であることの意義（個人のレベル・社会の一員としてのレベルなどで）を考える。さらに、加齢と言う生理現象を背景として、一生健康である（健康維持・健康増進）ために必要な知識の習得と健康な生活設計の方法の習得をめざす。また、最近の健康問題についても、その背景・原因の理解とその対策を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>栄養、健康科学シリーズ 健康管理概論（南江堂）とプリントを使用</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下の内容についての講義を行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 健康の定義</li> <li>② 個人・集団の健康指標</li> <li>③ 健康の成立条件：疾病の成り立ちや疾病予防の段階・対策などの理解を通して考える</li> </ol> </li> <li>2. 高齢社会とわが国の健康水準</li> <li>3. 最近の健康問題 <ol style="list-style-type: none"> <li>①生活習慣病（癌・脳血管障害・虚血性心疾患・糖尿病など）</li> <li>②アレルギー疾患</li> <li>③その他（エイズ・狂牛病・環境ホルモン・フロンとオゾン層の破壊・精神ストレス問題等）</li> </ol> </li> <li>4. 健康管理法（健康生活設計法の習得） <ol style="list-style-type: none"> <li>① 食事</li> <li>② 運動</li> <li>③ 休養とストレス</li> <li>④ 飲酒・喫煙の健康への影響について</li> </ol> </li> <li>5. 女性の医学（加齢と性機能・月経のしくみとホルモン・性病などの主な婦人科疾患の理解・人工妊娠中絶と避妊について）</li> <li>6. わが国の保健医療体制</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と筆記テスト</p>	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 宮武 直樹
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>最近のパソコン、ワープロ機器の普及はめざましいものである。この情報化社会の素養として、コンピュータの仕組み、操作からワープロ、表計算、図形処理、ネットワーク利用までの基礎を学習する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>随時プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考文献を授業で紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>「授業計画」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの構成と操作方法</li> <li>2. 日本語ワープロ、Wordの基本操作（3級程度の文書作成）</li> <li>3. 表や罫線を使う文書作成（2級程度の文書作成）</li> <li>4. 図形や段組を使う文書作成（1級程度の文書作成）</li> <li>5. 表計算機能の使い方</li> <li>6. 作図機能の使い方</li> <li>7. 表計算ソフト、Excelの基本操作</li> <li>8. 成績表の作成</li> <li>9. 各種の成績グラフの作成</li> <li>10. 成績に関するデータベースの作成</li> <li>11. 学内ネットワークへの接続と電子メールにつ</li> <li>12. 電子メールの送受信</li> <li>13. 簡単なホームページの作成</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業中での課題提出、電子メールによるレポート提出及び出席状況によって判断する。</p>	



【授業科目】 総合英語 I - 1・2	【担当者】 藤田 幸世
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>中学・高校で既習してきた英語の基礎知識を確認しながら、現在の自分に相応しい英語を学習することを目標とします。</p>	
【テキスト】授業毎にプリントを渡す他は、必要におうじて紹介します。	
<p>-----</p> <p>【参考書】 授業中に必要なときに紹介することにします。</p>	
授 業 計 画	
<p>Q : 中学や高校で学習してきた『English』はどこ国のことばでしょう。イギリス語？アメリカ語？オーストラリア語？ニュージーランド語？アイルランド語？カナダ語？それともインド語？香港語？</p> <p>英語は広く「様々な国」で「いろいろな社会階層」の人達に使用されています。日本でも教科の一つとして英語が広く学習されていますね。でも同じ日本人の私達が学校で学習するのは教科としての「英語」であることに気づいているのでしょうか。日本人が外国語として <b>English</b> を学習する場合と香港の人が第二言語として <b>English</b> を学習する場合、またはイギリス人が母語として <b>English</b> を学習する場合など場所や立場によっていろいろな『English』があります。このさまざまな顔をもつ『English』を味見しながら、後期のレポートには一人一人の人が上の質問に自分なりの答えを見つけられるようにするのがゴールです。</p> <p>筋肉トレーニングのように耳や頭を使う「外国語」としての知識を身につけるトレーニングを音声教材（ビデオ、視角資料）、またビデオと内容をリンクさせた聴解、読解作業のプリントで毎回行います。重要なことは外国語であっても、日本語であっても自分をどのように表現できるかという工夫です。そうした、文法だけでは解決できない表現の問題も一緒に考えていきましょう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とテスト・レポートを併せて評価を出します。</p>	

【授業科目】 総合英語 I-1・2

【担当者】 川口 淑子

【開講期】 前期・後期

【授業目標】

英語で書かれた作品の講読を通し、読解力の向上と応用できる知識を増やすことを目指す。

【テキスト】

R・カーヴァー著『レモンド・カーヴァー短編集』(鶴見書店、1000円)

【参考書】

授 業 計 画

現代の著名な作家の作品を講読することになるが、訳読のみでなく、作品の背景にある文化や習慣、あるいは自然な会話表現などを学ぶ機会としてもらいたい。

授業では講読が中心となるが、リスニングや基本的なスピーキングを取り入れ、多角的な取り組みを予定している。

作品を楽しみながら幅広い知識を身につけることを目的とするので、積極的な参加を期待する。

【評価方法】

平常的及び学期末試験から総合的に評価する。

【授業科目】 総合英語Ⅰ－1・2	【担当者】 東郷 裕
【開講期】 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>英文を「読む、書く、聞く」という三つの基礎能力を身に付ける事を目標とするが、特に英文を「読む」ことに重点をおいた授業にしていく予定。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>Bill McLain, <i>Do You Know?</i> (金星堂)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>プリント (授業中に配布する)</p>	
授 業 計 画	
<p>テキストの文章は比較的易しく、内容も興味深いものとなっている。しかしながら、諸君がより良く理解するために、グループ学習を行う。グループ単位で、予習と発表を行ってもらおう。予習の段階で不明な点や理解不能な点を諸君があらかじめはっきりさせておき、授業でその点を解決し、理解を深めていくという形態を取る予定。そのつもりで授業に臨んでもらいたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>前期・後期のテストとレポート、および授業参加態度で評価をする。</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1・2	【担当者】 長尾 主税
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>聞き取りをてがかりに、基本的な英語運用能力を養成しなおす。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>開講時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>あらためて英語の基本を学んでいただく。切実に英語を学び直したいと願っている人は、積極的に参加していただきたい。最初はわかりきったところからはじめるが、少しずつ難しくなっていくので、気を抜かないこと。</p> <p>最初の数カ月は、基本的な発音、語彙、文法を学び直す。説明されたことを理解したら、その場ですぐに使って覚えていく。指示されたことや思いついたことを口に出していってみる。テープによって、発音や基本的な会話のリズムを確認する。いずれも、徹底した反復が重要視される。よく用いられるフレーズは暗唱することになろう。このようにして基本的な運用能力を高めていく。</p> <p>小テストを行うことによってさらに理解と記憶を確かなものにしていく。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点および学期末の試験の成績によって評価する。</p>	

【授業科目】 海外語学研修	【担当者】 瀧口 優
【開講期】 前期	
【授業目標】 1. 英語を現地で体験して英語力を身につける。 2. 英語を通じてコミュニケーションの意味を理解する。	
【テキスト】 必要に応じて指示する。	
----- 【参考書】 必要に応じて紹介する	
授 業 計 画	
<p>イギリスはリーズ市にあるメトロポリタン大学の語学センターで3週間のプログラムに参加する。その間の生活はホームステイ。ウィークデイは1日2コマの英語の授業があり、現地の教員が懇切丁寧に指導する。</p> <p>また世界中から集まる学生達とスポーツやパーティをする機会もあり、英語圏だけでなく、視野を世界に広げることできるだろう。週末には近くにある有名な史跡などを訪ね、イギリスの歴史や文化に親しめる。ロンドン観光を含めて約4週間のイギリス滞在は、英語の見方を変えてくれるだろう。</p> <p>出発に向けて、前期に5回事前指導を行い、パスポートの取得から渡航手続き、現地での生活の仕方、簡単なサバイバル英会話まで指導します。</p> <p>【予定】 (多少変わるところもあります)</p> <p>8月3日 (土) 成田出発、アムステルダム経由でリーズへ (ホームステイ先へ)</p> <p>8月5日 (月) ~ 23日 (金)</p> <p style="padding-left: 40px;">リーズ・メトロポリタン大学での語学研修</p> <p style="padding-left: 40px;">*午後・休日に課外活動</p> <p style="padding-left: 40px;">ヨーク・ウインダミア (湖水地方：ピーターラビットの故郷)</p> <p style="padding-left: 40px;">ハワース (嵐が丘：ブロンテのルーツ)</p> <p>8月23日 (金) ロンドンへ</p> <p style="padding-left: 20px;">~26日 (月) ロンドン滞在</p> <p>8月26日 (月) アムステルダムへ</p> <p style="padding-left: 40px;">*アンネの家訪問等</p> <p>8月27日 (火) アムステルダム発</p> <p>8月28日 (水) 成田着</p>	
【評価方法】 ふだんの学習状況などの平常点 (出欠、予習、質問、意見発表など) とレポートで行う。	

【授業科目】	スポーツ/テニス	【担当者】 池森 隆虎
【開講期】 2年 前期		
<p>【授業目標】</p> <p>主にダブルスのゲームを楽しめるための技術、戦術、ルール、マナー等を身につける。  前半は初心者を対象にした基礎的な技術のレッスン、ミニゲームによる応用技術、戦術の獲得へと移行し、なるべく早い段階からゲームを行いルール、マナーの理解を深めたい。  後半はリーグ戦を行い、より高い技術、戦術の習得とテニスの楽しさを体験してほしい。</p>		
【テキスト】		
【参考書】		
授 業 計 画		
<p>1. オリエンテーションと実習のねらい</p> <p>(1) 実習のねらい、展開、評価などについて</p> <p>(2) 基本用語、基礎技術、ルール等の説明</p> <p>2. 基礎技術、技能の獲得</p> <p>(1) ラケット操作に慣れる、ボールの動きに慣れる</p> <p>(2) ストローク（フォアハンド&amp;バックハンド）</p> <p>サービス（アンダー&amp;オーバー）</p> <p>ボレー（ロー&amp;ハイ）</p> <p>ロビング、スマッシュ等の基礎技術の練習</p> <p>(3) 複合練習と簡易ゲーム</p> <p>3. 講義（応用技術獲得の手がかりとして）</p> <p>(1) ルール、コートマナー、エチケット及び試合の進め方について</p> <p>(2) ダブルスペアの決定</p> <p>4. ゲーム技術の習得（主にダブルスゲーム）</p> <p>(1) スポンジボールによるゲーム練習</p> <p>(2) ゲームの実践（戦術、ポジション、コンビネーション）</p> <p>(3) ゲームの審判法の習得</p> <p>*雨天時には、屋内において軽スポーツを行う場合があります。</p> <p>*ラケットは貸し出しますが、持参してもかまいません。</p>		
<p>【評価方法】評価点（40点）…実習参加への積極性、協調性、個人技能の向上（実習初回から終了までの過程における個人の上達度）、ルール、マナーや実習内容の理解度</p> <p>出席点（60点）…欠席-10点、遅刻（15分まで）-5点、早退-5点</p> <p>なお、開講時間数の1/3以上、欠席がある場合には、単位の取得を認めない。</p>		

【授業科目】 スポーツ / バレーボール	【担当者】 村田 務
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>身体運動やスポーツの体験を通して、自らの身体を実感的に意識させるとともに、健康に関する認識を深めさせたり体力を高めて、「健やかに生きる基盤」を形成することをめざす。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>西川 順之助：バレーボール、成美堂、1995年。 日本バレーボール協会：バレーボールルールブック、2002年度版</p>	
授 業 計 画	
<p>科学技術の進歩や経済の成長、社会構造の変化に伴い、運動の不足や食行動の偏り、精神的ストレスの増加など、健康に悪影響を及ぼす様々な問題が生じている。このような状況の中で、注目されているのが生涯体育（運動及びスポーツ）である。</p> <p>適切な身体活動は、疾病の予防や健康増進に寄与するだけでなく、生き甲斐や自己の確立など質的な生活の向上を可能にする。バレーボールは、場所や設備、体力的側面からみて、比較的容易に継続して活動することが可能なスポーツである。</p> <p>教養体育（実技）の授業では、これらの観点から将来にわたってスポーツや身体運動が継続できるように、楽しい授業や技術の向上がわかる授業、自ら活動し創り出す授業をめざす。</p> <p>学習内容</p> <p>          個人的技能：パスとトス                                 サーブとレシーブ                                 スパイクとブロック</p> <p>          集団的技能：攻めと守りのフォーメーション                                 トスゲーム                                 3段攻撃、ルールづくり</p> <p>          指導技術  ：技術指導法                                 体力トレーニング法                                 審判法</p> <p>授業の流れ</p> <p>          全体活動  ：共通課題の解決           グループ活動：班別課題の練習と解決                                 指導法                                 練習法の習得</p> <p>          ゲーム    ：練習成果の確認                                 新しい課題の発見                                 審判法の習得</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（平常点、実技等）。活動意欲と参加体験（授業出席）を重視する。</p>	

【授業科目】	スポーツ／卓球	【担当者】	松岡 山紀子
【開講期】	前期		
【授業目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツをすることによって運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。</li> <li>・ 運動技能と知識の習得。</li> </ul>		
【テキスト】			
【参考書】			
授 業 計 画			
【卓球】	<p>技能練習とゲーム</p> <p>1、ストロークの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フォアハンド</li> <li>・ バックハンド</li> <li>・ ツツキ</li> <li>・ カット</li> <li>・ スマッシュ</li> </ul> <p>2、サービスの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フォアハンドロングサービス</li> <li>・ バックハンドロングサービス</li> </ul> <p>3、レシーブの練習とラリー</p> <p>4、ゲームとルール、審判法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シングルス</li> <li>・ ダブルス</li> </ul>		
【評価方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常点（出席重視）</li> <li>・ 授業中に採点する。</li> </ul>		



專門教育科目（2年）



【授業科目】 障害児・者福祉論	【担当者】 友田 篤
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害者福祉の理念や障害の理解、障害者問題の歴史、福祉サービスの内容さらに現在進行中の福祉改革の流れなどを総括的に学習し、実践現場の紹介を豊富に交えながら、障害児者への援助の理解を深める。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>障害者福祉論 介護福祉士養成講座 中央法規出版</p>	
<p>【参考書】</p> <p>ぼく、このままでいい？ 小原瑞穂 祥伝社          障害者問題の基礎知識 石渡和実 明石書店</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者福祉の基本的な考え方（福祉改革含め）</li> <li>2. 障害とは何か。（国際的な新しい理解）</li> <li>3. 障害者の実態と多様な福祉ニーズ</li> <li>4. 障害者福祉の歴史</li> <li>5. 施策の体系</li> <li>6. 障害者への福祉サービスの展開</li> <li>7. 障害者福祉に関連する分野</li> <li>8. さまざまな障害者の現状と課題</li> <li>9. 福祉改革と社会福祉法</li> <li>10. 社会福祉施設での援助の実際</li> </ol> <p>以上の他、随時内容を調整しながらビデオやスライドも活用し授業を進める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートおよび、出席状況と授業態度で評価。</p>	

【授業科目】 社会福祉援助技術	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2年 前期	
<b>【授業目標】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉士の実践にとって必要な社会福祉援助技術の大意を理解する。</li> <li>2. 社会福祉援助技術の方法および内容について理解する。</li> <li>3. 他の専門職とのチームワークの大切さとチームメンバーとしての自覚を高める。</li> <li>4. 居宅介護支援および施設介護サービス計画の意義および概要について理解する。</li> </ol>	
<b>【テキスト】</b> 授業時に指示する。	
<b>【参考書】</b> 授業の中で適宜紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉士と社会福祉援助技術</li> <li>2. 個別援助技術（ケースワーク）の理解               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個別援助技術の意義・機能・原則・展開過程など</li> </ol> </li> <li>3. 集団援助技術（グループワーク）の理解               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 集団援助技術の意義・機能・展開過程など</li> </ol> </li> <li>4. 地域援助技術（コミュニティワーク）の理解               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域援助技術の意義・機能・展開過程など</li> </ol> </li> <li>5. 関連援助技術（ケアマネジメント、ネットワーク、チームワークなど）の理解</li> <li>6. 居宅介護支援および施設介護サービス計画の理解</li> <li>7. 社会福祉援助技術における具体的手段               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 面接の構造と技法</li> <li>(2) 記録の書き方</li> <li>(3) 事例研究の方法</li> </ol> </li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 平常点と学期末レポートによる。	

【授業科目】 社会福祉援助技術演習	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉援助技術の理論について演習で理解を深めるとともに、応用能力を向上させ介護福祉としての社会福祉援助技術を修得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 老人や障害者の事例をとりあげ、社会福祉援助技術について具体的に検討することにより、その実際の活用について理解する。</p> <p>2. 事例に基づき、居宅サービス計画および施設サービス計画の実際を演習する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と学期末レポートによる。</p>	

【授業科目】 家政学実習Ⅰ（栄養・調理）	【担当者】 風見公子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者（児）や高齢者の食事に関する援助の基本的な方法について実習によって学ばせる。</li> <li>2. 施設実習などで経験した食事介助のあり方、食品衛生の管理の方法を実習と関連させながら理解させる。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教師作成のプリント</li> <li>② 足立己幸 著 「主食 主菜 副菜料理成分表」 群羊社</li> </ol>	
<p>【参考書】</p> <p>参考書は授業の中で、適宜、紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な調理操作、及び調理器具の扱い方を日常の家庭料理の実習を通じて学ぶ。</li> <li>2. 献立作成・栄養価計算 自分の食事記録及び、その診断によって望ましい食事構成のあり方を学ぶ。 また、実際に献立作成したもので調理実習も行う。</li> <li>3. 障害者（児）・高齢者にとって望ましい食事を、主に食物形態の変化を中心に実習し学ぶ。</li> <li>4. 障害者（児）・高齢者の食行動を理解する為の実習を行う。また、実際的な食事の援助方法を学ぶ。加えて、衛生管理を行う。</li> <li>5. 嗜好調査の方法と分析方法を演習する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>試験もしくは課題レポート及び出席状況</p>	

【授業科目】 家政学実習Ⅱ（住居）	【担当者】 櫻井 典子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】 私たちにとって住居とは、日常生活の基盤であり、人間・家族が成長発達し、生活文化が築かれ伝承される場である。</p> <p>本授業は、誰もが安全で快適に暮らすための住居や住生活の計画・管理についての理解を深め、実践力を養うことを目的としている。住居の基本的な役割をふまえ、高齢者や障害者に配慮した室内環境、住居計画、住居を含む地域環境のあり方について、講義、演習、レポート作成などをおして学んでいく。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>後藤久 他 「基礎シリーズ住居学入門」 実教出版</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時、講義中にプリントを配布し、参考図書も紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 住生活と生活空間</li> <li>2. 室内環境整備</li> <li>3. 高齢者・身体障害者の住生活 ～ユニバーサルデザインとバリアフリーデザインの考え方～</li> <li>4. 福祉のまちづくり</li> </ol> <p>&lt;演習&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 住居の設計</li> <li>2. 高齢者・身体障害者のための住宅改造計画</li> <li>3. バリアフリー住宅などの見学</li> <li>4. まちの点検</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席、設計課題、レポート課題、小テスト</p>	

【授業科目】 家政学実習Ⅱ（被服・住居）	【担当者】 山本良子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>衣生活の管理に関する技術を実習を通して習得させ、かつ高齢者や障害者の家庭生活支援に必要な実践的な経営能力を養わせる。</p>	
<p>【テキスト】 家政学実習ノート 佐々井 啓編 誠信書房</p>	
<p>【参考書】 家政学実習 大谷 陽子編 建帛社</p>	
授 業 計 画	
<p>1) 被服素材の特徴および繊維鑑別の実習            素材表示に示されている繊維の簡単な見分け方の実習</p> <p>2) 布地の性能に関する実習            布地の種類、構造の観察実習</p> <p>3) 被服管理実習            洗濯、漂白、しみ抜き、のり付け、仕上げ、保管その他</p> <p>4) 高齢者や障害者のための被服デザイン・構造、色彩、及び着脱の工夫等            体型・障害の例による使いやすい被服の検討を考える。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習レポート</p>	



【授業科目】 医学一般Ⅲ	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2年 後期	
【授業目標】 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. わが国の保健・医療・福祉の歴史と現状対策の理解をはかる。</li> <li>2. 医療法制度の概要の理解。</li> <li>3. 医療関係者とのスムーズな連携のために… 医療・福祉現場で必要とされ、理解していたほうが better な知識の習得。</li> <li>4. 介護福祉士自身の健康増進・管理法の習得。</li> </ol>	
【テキスト】 介護福祉士養成講座 10 医学一般 (中央法規)	
【参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康の概念とわが国の健康水準</li> <li>2) 公衆衛生の動向 <ol style="list-style-type: none"> <li>①人口統計</li> <li>②疾病と受療状況</li> <li>③医療関係者の現状</li> <li>④医療施設の現状</li> <li>⑤医療保障制度</li> </ol> </li> <li>3) 保健医療対策の概要 <ol style="list-style-type: none"> <li>①老人保健対策</li> <li>②精神保健対策</li> <li>③生活習慣病対策</li> <li>④母子保健対策など</li> </ol> </li> <li>4) 健康増進施策 —食生活と栄養・運動・喫煙・アルコール・ 休養とストレス—</li> <li>5) 健康増進と生活習慣病などの疾病予防法</li> </ol> </li> <li>2. 医事法制の概要 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療法</li> <li>2) 医師法</li> <li>3) 保健婦助産婦看護婦法</li> </ol> </li> <li>3. <ol style="list-style-type: none"> <li>1) カルテ (医療情報提書) の読み方</li> <li>2) “薬 (処方箋)” の中身の調べ方と重要な薬の副作用の理解</li> <li>3) 主な検査データの読み方 (血算・生化学・尿)</li> <li>4) 入所者の全身状態の把握の仕方</li> <li>5) 入所者の緊急状態の把握の仕方と救急処置</li> </ol> </li> <li>4. 介護士自身の健康管理法 介護士が職務上注意すべき疾患とその予防法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康の原則</li> <li>2) 健康増進と生活習慣病などの疾病予防法</li> <li>3) 注意すべき疾患とその予防法 腰痛症 (ヘルニア・坐骨神経症・脊柱官狭窄症・すべり症など) 手足のしびれ</li> </ol> </li> </ol>	
【評価方法】 <p style="text-align: center;">出席点と筆記試験</p>	

〔授業科目〕 形態別介護技術Ⅱ	〔担当者〕 新井幸恵
〔開講期〕 2年 前期	
<p>〔授業目標〕</p> <p>①知的障害者、精神障害者の暮らし、思い、希望を知る（教育、医療、就労、住居含）</p> <p>②介護や周辺諸科学、当事者運動等の歴史、現状から新しい介護のありかたを探る</p> <p style="padding-left: 2em;">i 地域で暮らし続けるための様々なシステムや介護技術を考える</p> <p style="padding-left: 2em;">ii 様々な施設で暮らす利用者への援助の視点と介護技術を考える</p> <p>③理解を助けるために当事者、当事者組織の方々をお招きし交流を深める</p> <p>④これらを通じて、私たち自身の内にある偏見の克服を考える</p>	
<p>〔テキスト〕</p> <p>ミネルバ書房「⑬形態別介護技術」2000年</p>	
<p>〔参考図書〕 ① 日本ダウン症協会編「ようこそダウン症の赤ちゃん」2000年</p> <p>② 松浦幸子「不思議なレストラン」教育史料出版会1997年</p> <p>③ 精神障害者社会復帰促進センター「精神障害者ホームヘルプの進め方」2000年</p> <p>④ 古川奈都子「心を病むってどういうこと？」ぶどう社2001年</p>	
<p>〔授業計画〕</p> <p>①授業前準備として、各自関心のある地域の障害者施設（作業所、喫茶店、グループホーム、レストラン、工場など）を訪れその概要と感想を提出する。</p> <p>②地域毎にどのような障害者支援のシステムがあるか、各自の調査記録を元に発表、検討する</p> <p>③障害者介護の歴史を振り返り、過去の障害者介護観を考える</p> <p style="padding-left: 2em;">ヒュウ、G. ギャラファー「ナチスドイツと障害者安楽死計画」現代書館／共同作業所全国連絡会「精神障害者の未来を開くために」萌文社など参照</p> <p>④知的障害者／精神障害者介護の技術を考える</p> <p style="padding-left: 2em;">i 生まれたとき／障害が現れたとき ii どんない気持ち／どんな悩みが／障害を乗り越える力はどこから iii 家族の役割、家族の悩み、家族の力 iv 教育、療育 v 仕事に出かける vi 地域で暮らす vii 施設で暮らす viii 人間として暮らす為の社会の役割／社会の動き／社会の力 ix 仲間と集う／自助グループを運営する／社会に働きかける</p> <p>⑤障害者介護と様々な連携機関の働き</p> <p>⑥当事者の方々をお招きして、病や障害を持ちつつ生きるとはということか学ぶ</p>	
<p>〔評価方法〕</p> <p>授業前レポートなどのレポート及び 筆記試験を行います</p>	

<b>【授業科目】</b> 形態別介護技術Ⅲ（視覚障害）	<b>【担当者】</b> 立花明彦
<b>【開講期】</b> 2年 前期	
<b>【授業目標】</b> <p>視覚障害といっても、障害の程度（見え方）、障害の発生原因とその時期、今後の進行予測など個人によって様々である。いずれにしても、日常生活において受ける影響は大きくその克服は容易ではない。その障害を克服して社会的に自立するために必要な援助について学習する。</p>	
<b>【テキスト】</b> <p>視覚障害者の介護技術、点訳のしおり</p>	
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <b>【参考書】</b>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>(1) 視覚障害に関連する医学的知識として、目の構造と機能、視覚障害の原因となる疾病、保有感覚の働きと活用などの基礎的な知識を学習する。</p> <p>(2) 厚生労働省による身体障害児・者実態調査を参考資料とし、視覚障害児・者の統計的動向を学習する。</p> <p>(3) 視覚障害児・者の教育、職業、日常生活の現状を理解する。</p> <p>(4) 視覚障害者とのコミュニケーションの一つとして点字の基礎的な知識技能を学習する。</p> <p>(5) 視覚障害者に対するパソコンを始めとする情報機器やシステムの急速な発達の現状とその活用を学習する。</p>	
<b>【評価方法】</b> <p>出席状況、平常点、筆記試験</p>	

【担当科目】介護実習 Ⅲ	【担当者】 関谷 榮子・西方規恵・土川洋子・新井幸恵・落海文子・大瀧法子・鷹野直子
【開講期】	2 年 前 期
<b>【授業 目標】</b> 1. 実習第Ⅲ期（総合実習） (1) 受け持ち利用者の介護計画を立案、実施、評価し利用者理解を深める。 (2) 夜勤などの変則勤務を体験し利用者の24時間の生活を理解する。 (3) 介護福祉士としての自己覚知をもち、自己の介護観を述べるができる。 (4) 第Ⅲ期終了後に受け持ち利用者の介護過程をまとめレポートにする。 2. 在宅における利用者の実態を知り介護上のニーズを把握しそれに応じた介護の実際を学ぶ。	
<b>【テキスト】</b>  実習要項他	
<b>【参考書】</b>  実 習 計 画	
<b>【第Ⅲ期介護実習】</b> 1. 介護計画の立案、実施、評価の方法を習得する。 1) 受け持ち利用者の全体像を把握し問題を明確にしたうえで介護計画を作成する。 2) 介護計画の内容については実習指導者の助言を得た後に実践する。 3) 日々の実践を所定の記録用紙に記録する。  2. 夜勤実習 利用者の24時間の生活援助を経験する。  3. 介護福祉士としての資質、適性を身につける 1) 実習を通して介護者としてのあり方、援助の内容を分析し介護福祉士としての自己覚知を深める。 2) 自己の介護観を明確にする。  実習期間 平成14年9月2日から27日までの20日間 実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。  <b>【在宅介護実習】</b> 在宅介護実習は前期の実習指導Ⅱ、及び空き時間を活用して段階的に体験する。詳細については別途指示する。 1. 学内オリエンテーション（4月） 2. 事前現場オリエンテーション（5月） 3. 訪問介護実習（6～7月にかけて1～2日間実習） 4. 学内報告会（7月下旬）	
<b>【評価方法】</b> 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【担当科目】 実習指導Ⅱ	【担当者】 関谷榮子・西方規恵・土川洋子・新井幸恵・落海文子・大瀧法子・鷹野直子
【開講期】 2 年 前 期	
<b>【授業 目標】</b> (1) 介護福祉専門職としての自己覚知をもち、専門職に求められる資質技能及び自己に求められる課題把握など、総合能力を修得する。 (2) 介護実習を通じて得られた知識・技術、態度を実際的に応用する能力を修得する。 (3) 個別介護計画を立てて実施し評価する方法を学ぶ。 (4) 在宅介護実習の意義と実際について総括的に学ぶ。	
<b>【テキスト】</b>  実習要項他	
<b>【参考書】</b>	
授 業 計 画	
1. 介護実習第Ⅱ期のまとめ。第Ⅲ期の準備を行う。 介護実習第Ⅱ期のスーパービジョン及び第Ⅲ期実習に向けての演習並びにグループ討議を行う。 1) 第Ⅱ期実習後のスーパービジョン、個別面接。 2) 第Ⅲ期実習配属施設の決定。 3) 受け持ち利用者の情報収集、アセスメント、問題発見と分析方法の演習。 4) 介護計画の立案、実施、評価方法について学ぶ。  2. 在宅介護実習の事前学習、オリエンテーション、事後反省会を実施し総括学習を行う。  (介護実習第Ⅲ期) 実習期間 平成14年9月2日から27日までの20日間 実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。	
<b>【評価方法】</b> 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【担当科目】 実習指導Ⅲ	【担当者】 関谷榮子・西方規恵・土川洋子・新井幸恵・落海文子・大瀧法子・鷹野直子
【開講期】	2 年 後 期
<p>【授業 目標】</p> <p>(1) 介護福祉専門職としての自己覚知をもち、専門職に求められる資質技能及び自己に求められる課題把握など、総合能力を修得する。</p> <p>(2) 介護実習第Ⅲ期で実施したケアプランのまとめを行い自己の介護実践をふりかえる。</p> <p>(3) 個別介護計画を実施し評価する方法を学ぶ。介護事例検討会を行う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">実習要項他</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>介護実習第Ⅲ期</p> <p>実習期間 平成14年9月2日から27日までの20日間</p> <p>実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。</p> <p>2. 実習終了後</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 第Ⅲ期介護実習のまとめ、介護実践をふりかえり実施したケアプランを自己評価する。</li> <li>2) 受け持ち利用者のケーススタディ・レポートを作成する。</li> <li>3) グループ単位で事例検討会を行う。</li> <li>4) 1. 2年生合同で事例検討発表会を行う。</li> </ol>	
<p>【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。</p>	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>I：福祉施設や医療現場で使用される医療機器の理解  II：介護実習の症例検討：医学的視点を加えて  III：医療と福祉の接点に関連する本や雑誌の輪読と新聞記事などから up-to-date な記事を選び議論する</p>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>I：福祉施設に入所している高齢者や在宅高齢者の多くは、介護面からのケアと同時に医療的処置を必要としている場合が多い。このような高齢者に、質の高い医療・福祉を提供するためには医療スタッフ以外の介護職も基本的な医療機器の知識をもつことは、緊急時などに医療スタッフと共に協力して高齢者に対処することができるし、介護福祉士の自信にも繋がる。また、将来これらの知識を持つ事を公に要求される時期がくることも予想される。よって、その機器がどのような機器でその機器を使用する目的（どういう状況の時に使用するか）は何か、などの理解をめざす。学生同志でお互いに測定し合う・それらを装着して体験を試みる。</p> <p>具体的には、</p> <p style="padding-left: 2em;">尿道カテーテル（バルーン）  点滴セット・IVH とは？  ストマ・酸素マスク・酸素ポンプの見方や管理の仕方・痰吸引機の取り扱い方  血圧計・心電図・体温計の原理や使用方法 など</p> <p>II：介護実習 III 期で担当した症例を一人ずつ報告してもらい、質疑応答しながら医学的視点から再検討を加え、より良い介護をめざす。</p> <p>III：本や雑誌・新聞などから up-to-date な医療と福祉の接点に関連する話題を選び分担を決めて報告し合い、担当者の内容説明を中心にして、皆で discussion し理解を深める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">出席点・授業姿勢・レポートなど</p>	

【担当科目】 卒業研究 ゼミナール	【担当者】 関谷 榮子
【開講期】 2 年 前 ・ 後 期	
<b>【授業 目標】</b> 1. 地域で生活する障害者や高齢者の実態を学び、介護援助の課題を考える。 2. 学生自身の問題意識を尊重し体験学習を通じて実践的に学ぶ能力を養う。	
【テキスト】	
<b>【参考書】</b> ゼミナールの中で紹介する。各自で探して報告する。	
授 業 計 画	
<p>要介護高齢者および障害者が実際にはどのようにして生活し、どのような要望を持ちどのような援助を求めているのか、まず無心に耳を傾ける。</p> <p>当事者からの問題提起によって学生は多くの気づきがあるであろう。またハンディキャップをせおいつつ生きていくにはどのような努力がされただろうか。援助者には何を期待するのだろうか。</p> <p>要介護高齢者や障害者の方々から新鮮な感動や驚きを得たい。また援助者として何が必要かを考えて身近なところで実践に踏み出していきたい。</p> <p>在宅の要介護高齢者のお宅を訪ねたり、障害者の方がたとともにすごしたり体験を深めその中から生活援助のあり方を考え介護者としての資質を高めたい。</p> <p>&lt;前期&gt;          学内の活動          ・ 参考書やビデオなどから各自で学び抄読会を行う。          地域活動          在宅の障害者や高齢者の家庭を訪問し直接当事者の方々から話を聞く。</p> <p>&lt;後期&gt;          地域活動を継続し、レポートにまとめる。          在宅ケアのあり方をまとめる。</p> <p>学生同士のボランティア活動に協力したり、ゼミ運営は学生自身の自主活動とする。</p>	
【評価方法】 出席点、 レポート・その他により評価する。	



<b>【担当科目】</b> 卒業研究 ゼミナール	<b>【担当者】</b> 土川 洋子
<b>【開講期】</b> 2 年 前 ・ 後 期	
<b>【授業 目標】</b> 障害者や高齢者の介護援助技術に関する文献研究や事例検討、調査活動等を体験して介護援助に関する初歩的な研究の進め方を学ぶ。	
<b>【テキスト】</b>	
<b>【参考書】</b>	
授 業 計 画	
<p>・ゼミナールのすすめかた及びテキストなどは初回の授業の折りに提示する。</p>	
<b>【評価方法】</b> 出席点、 レポート・その他により評価する。	

[授業科目] 卒業研究ゼミナール	[担当者] 西 方 規 恵
[開講期] 2年 前期・後期	
[授業目標] 障害者・高齢者に対する介護を事例を通して考える。	
[テキスト・参考文献] ゼミナールのなかで紹介する。	
授 業 計 画	
<p>介護は、身体的・精神的又は社会的に何かの問題を持っている為に生活に支障をきたしている方々に、何かの援助をすることで、日常生活が継続できるよう働きかけていくことであり、その働きかけ方は本人の自立を支援する方向でなされるべきであるとされている。</p> <p>ところで高齢者の中には、痴呆症状がある方がおられたり、障害者の中には知的障害の方や精神障害の方々がおられる。このような方々にとって「自立支援」を含めた介護はどのようになされるべきなのだろうか。</p> <p>具体的には事例を通して学んでいきたいと考えている。また学ぶに当たって、施設見学なども考えている。</p>	
[評価方法] ゼミナールへの参加度（出席・レポート、発表姿勢など）を含めて平常点で評価する。	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉の援助技術について理解すると共に、社会福祉の専門性について考察する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>人々が実際に生活している地域社会において、どのような福祉問題がおきているのか、また、それらに対して誰がどのような立場で、どのような援助技術をもって援助をおこなっているかについて、文献研究や事例研究などから具体的に学んでいく。そして、社会福祉援助の実践をになう社会福祉専門職としての力量を高めていきたい。</p> <p>また、その中で各自の問題意識をより明確にするとともに、ゼミ生どうしのディスカッションをとおして、お互いに学び合っていく関係をつくっていきたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点により評価する。</p>	

【授業科目】 地域福祉論	【担当者】 朝倉美江
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>地域福祉論では、地域福祉の理念、人々の生活基盤である地域社会と人間との関係を理解する。その上で、誰もが尊重される地域社会（福祉コミュニティ）を形成していくためにはどのような地域福祉政策や地域福祉活動が求められ、実際にどのような内容で実施されているのか。その実態や方法を具体的に理解することを目的とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『在宅介護支援の今日と明日』一橋出版、1999年</p>	
<p>【参考書】</p> <p>講義の中で適宜紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p> <p>講義は、以下のテーマをとりあげながら、地域福祉の概念・歴史・政策・方法等を実践事例等を通して具体的に理解できるようにしたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. あなたはどこで暮らしたい？（施設福祉と在宅福祉）</li> <li>2. 介護って何？（在宅介護と地域福祉）</li> <li>3. 地域とは何か？（居住とコミュニティ）</li> <li>4. ノーマライゼーションと福祉コミュニティ（地域福祉の理念）</li> <li>5. 地域福祉の概念と歴史</li> <li>6. 地域福祉政策と介護保険制度</li> <li>7. ボランティアとNPO（地域福祉活動）</li> <li>8. 地方自治体の役割と住民参加</li> <li>9. 権利擁護とエンパワーメント</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義への参加状況と試験</p>	

【授業科目】 ホスピスケア概論

【担当者】 梅田 嘉子

【開講期】 2年 後期

【授業目標】

ホスピスとは何なのか、利用する人は、なぜ必要なのか、ホスピスケアとはどういうものなのか。  
「他人の死」に対する援助を学びながら、自分自身の死生観を考える一助にする。  
講義では、ホスピスの歴史や外国の例、我が国の現状を学び、ターミナルケアとホスピスケアと比較し、他人の死への関わり（援助一看取り）を通し、「より良く生きるとは」の意味について考えていく。

【テキスト】

柏木哲夫著『NHK人間大学 死を看取る医学』NHK出版、  
1997年

【参考書】

谷壮吉・錦織 稔著『最新ホスピスQ&A100』東京書籍  
1999年

授 業 計 画

- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| 1. ホスピスとは     | 2. 死の意味するもの          |
| 1) ホスピスの起源    | 1) 死とは何か——定義         |
| 2) ホスピスの定義    | 2) 日本における病院死<br>の問題点 |
| 3) ホスピスの使命    | 3) ターミナルステージ         |
| 4) 外国の現状      | 4) 死にゆく人の心理過程        |
| 5) わが国の現状     |                      |
| 3. ホスピスケア     | 4. 多様な援助のしかた         |
| 1) ホスピスケア     | 1) 在宅の場合             |
| 2) ホスピスでの生活   | 2) 安楽死、自殺等           |
| 3) 家族へのケア     |                      |
| 4) ホスピスボランティア |                      |

スライド・ビデオや資料を用いて事例を紹介する。

【評価方法】

平常点とレポートから総合的に評価

[授業科目名]	視聴覚メディア活用法	「担当者」八木 絃一郎
[開講期]	2年後期	
[授業目標]	パソコンをマルチに使いこなす「技術」「知恵」を磨く。これからの介護現場 に従事する人たちの『表現文化性』を豊かにするためのアイデアとテクニックの習得をめざす。	
[テキスト・参考書]	なし	
<b>授 業 計 画</b>		
<p>この演習では、介護現場の「表現文化性」を豊かにするための知恵を教授する。 以下に提示した項目のいくつかを扱うことになる。</p>		
<p>1、基本テクニックとしてのパワーポイントの習得 パソコン使用技術はあることを前提にして授業をする。 共通テクニックとしては、パワーポイントだけ。あとはデジタルカメラ、スキャナ、イラスト、写真、などビジュアルに描くテクニックなどを全てマルチに幅広く活用していく。</p> <p>2、表現文化性豊かなコミュニケーションツールの製作 カード作成(クリスマスカード・年賀状) 誕生カード(実習先の利用者を想定した誕生カードの作成方法) カレンダー作成</p> <p>3、デイケアのアートレクリエーション・ツールに使えるパソコンテクニック</p> <p>4、実習先の施設紹介ちらし・パンフレット作成 PR用のレイアウト・デザインに必要な基本知識とテクニック</p> <p>5、実習施設における各種行事の案内状作成 1年間を通した四季折々の季節行事・運動会・生活展・お祭りなどの案内状作成に必要な基本テクニックとマナー等の習得</p>		
[評価方法]	平常点	



学籍番号・

氏名・

---

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830  
教務課 042(346)5619